

2001年度

講義計画

桃山学院大学

圖

十

義

詩

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	01	前 期	2単位	永 谷 峯 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>体育・スポーツには、さまざまな要素が含まれています。個人の健康や体力に関わるものから、社会や文化そして経済にもつながります。言いかえると、スポーツを楽しむ人々やチャンピオンを目指す選手から、スポーツ行政やスポーツ産業までさまざまです。</p> <p>我々が当然のように受け止めている今の便利な生活は、運動不足に陥り、生活習慣病をひきおこす大きな要因ですし、ストレス社会とも呼ばれています。また、子供達や青少年の体力低下は、指摘されて久しいものがあります。それらは、生活習慣全般から体を動かすことを改めて考えなければなりませんし、これからは自己の責任と管理が必要なことです。</p> <p>スポーツには、楽しみを主眼としたスポーツから、チャンピオンを目指すエリートスポーツまでさまざまです。また、「するスポーツ」や「観るスポーツ」の言葉もあります。そして、オリンピック等に代表される組織や大会は、ビジネスやナショナリズムにも繋がっています。</p> <p>本講義では、二つのポイントをもって開講します。一つは健康論の基礎として、もう一つは社会・経済・文化等の側面から考察します。諸君が体育・スポーツにたいして、自ら考えるとともに、実践する契機としての講義を目指します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I スポーツと健康 ①からだはどうか ②生体のリズムとスポーツ ③スポーツとストレス ④スポーツの功罪 ⑤トレーニングと体力づくり</p> <p>II スポーツと社会 ①スポーツの歴史 ②世界のスポーツ事情 ③日本のスポーツ事情 ④スポーツとお金 ⑤スポーツは楽しいものなのか、そしてみんなのスポーツ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートとテストで評価します。 出席点を加えます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>小野三嗣 『健康・体力づくり入門』 (大修館)</p> <p>中村俊雄・出原泰明・等々力賢治 (共著) 『現代スポーツ論』 (大修館)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は指定しません。必要な資料はプリント配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	02	前 期	2単位	高 橋 ひとみ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達の人々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。</p> <p>激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。</p> <p>ストレス社会を迎え、時代のキーワードともいえる「健康」について、そして、「健康」生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」・「休養」・「栄養」について学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題と健康教育 2. 運動と健康 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 環境衛生と健康 6. 新しい疾患と対策 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験および小テストにより成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「みんなの健康科学」 高橋ひとみ編著 明研図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	03	前 期	2 単位	高 成 廈
【講義概要・学習目標】 現在では、健康を“WELLNES”（良好な状態）ととらえる考え方が大勢を占めている。“WELLNES”は個人の責任や管理のもとで、最適な健康を求めるライフスタイルとみなされている。したがって、健康はできる限り良好な状態を実現するために生涯にわたっておこなわれるアプローチである。 現代社会におけるスポーツと健康の問題点を認識し、健康であることの意義を深く考え、健康的な生活習慣の確立と実践をわらいとする。	【講義計画】 I、現代社会とスポーツ 1. 現代社会とスポーツ 2. 日本のスポーツ行政の現状 3. 日本のスポーツ施設の現状と問題 4. 諸外国のスポーツ事情 5. スポーツと健康 6. 体力づくりの方法			
【成績評価の方法】 テスト2回を課して評価する。	【参考文献】 「スポーツと健康」 石河利寛（著） 岩波新書			
【教科書】 資料をプリント配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	04	後 期	2 単位	長谷川 修一郎
【講義概要・学習目標】 機械文明が高度に発達した現代社会は、便利で安楽な生活環境をつくりだした。一方、1960年頃から「青少年のからだがかたおかしい」と実感されるようになった。その後、30数年経った1996年に本学の体育担当教員の共同研究で全国の480大学から回答が返送された。結果は、「アレルギー疾患」、「すぐに疲れたという」、「すぐにしやがむ」、「視力低下」、「腰痛」、「首筋や肩がこる」、「風邪を引きやすい」等の症状がワースト10を占めた。動物としてのヒトは動くことを宿命づけられており、動くことによって生命が維持されているのである。ワースト10の症状は絶対的な運動不足の結果であると言える。本講義では、便利で安楽な生活環境における健康・体力の獲得に向けた生活習慣の見直しを共に考えたい。	【講義計画】 1. 序論 2. 少年の「身体のおかしさ」 3. 最近の青少年の体格は良いが、体力が低下していると言われていることの実態 4. 現代社会における体力の意義 5. 生体リズムと生活リズム 6. 食生活と栄養 7. 生活のなかでの体力づくり 8. 体脂肪測定の実施 9. 体力の構成要素 10. トレーニングの原則 11. 筋力トレーニングと持久力トレーニング テストは、最終日に行う			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	05	後 期	2単位	今 西 俊 次
<p>[講義概要・学習目標] スポーツ・レクリエーションなどの身体活動は、現代社会において多様な価値をもっている。たとえば、今日のように“快適で便利な社会”“豊かな社会”になっても、人間は“動く物”であることを否定できないし、適度に動くことは生涯を通して求められる。そして、“健やかに生きる”ということは、個人、家族および社会にとって重要な課題である。そのために、我々が生活している社会・環境を見つめ、日々の運動・栄養・休養に関する生活習慣を見直すことは不可欠である。 本講義では、今日的な健康問題が発生する要因と問題への処方、日本と欧米におけるスポーツ事情等について理解を深め、現代社会におけるスポーツ・レクリエーションの役割と意義について考える。</p>	<p>[講義計画]</p> I. 現代生活と健康・体力 1. 現代生活の特徴 2. 生活習慣と健康・体力 3. 身体組成（体脂肪）と健康 4. 運動とからだ 5. 健康・体力づくりの考え方と原則 6. 健康・体力づくりの方法 II. 現代社会とスポーツ 1. 欧米における体力づくりの歴史 2. 日本におけるスポーツ・レクリエーションの現状と課題			
<p>[成績評価の方法] レポート、テストなどによって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 資料を配布する。</p>				

【概 要】

「体育・スポーツ学実習（旧保健体育実技）」は、「健康トレーニングコース」「スポーツ文化コース」「シーズンスポーツコース」「障害者スポーツコース」「レクリエーション・スポーツコース」「スポーツトレーニングコース」から成り、種目別にクラス編成されます。この科目は予備登録ならびに履修登録が必要です。予備登録の方法については、別紙『「体育・スポーツ学実習」予備登録要領』を参照してください。

A. 健康トレーニングコース

種 目	対象	開講期間	単位認定基準
エアロビクス、ボディビルディング	男女	半期	12講時+レポート
トータル・ボディ・シェイプアップ	女	半期	

B. スポーツ文化コース

種 目	対象	開講期間	単位認定基準
バレーボール、バスケットボール、水泳 硬式テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ	男女	半 期	12講時+レポート
サッカー、ハンドボール、ソフトボール 軟式野球、室内サッカー	男		
女子トリム・ソフトボール	女		
剣道、柔道、ラグビー、スケート アーチェリー	休 講		

- ※1. 女子学生は、原則としてサッカー、ソフトボール（男）、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーは受講できません。
2. ゴルフは打球費を必要とします。
3. 硬式テニス、サッカー、バドミントンに経験者クラスを設けます。

C. シーズンスポーツコース

- ① スキーは、事前に学内でストックワークなどのトレーニングを2日間行い、2月中旬にスキー場で集中実習を実施します。
② 集中水泳は、9月上旬に集中実習を実施します。

種 目	対象	期 間	場 所	参加費	手続	備考
スキー	男女	2月中旬 (4泊5日)	長野県 戸隠スキー場	約35,000円 (リフト代含)	11月	01,02 クラス
集中水泳	男女	9月初旬 (5日間)	学内温水プール	な し	7月	
集中ゴルフ・ 集中硬式テニス <初級者・経験者>	休 講					

- ※1. スキーでは参加費以外に、交通費、スキーレンタル代などの経費が必要です。
2. 集中水泳は他の集中講義科目と重複して履修できません。

D. 障害者スポーツコース

障害者スポーツコースは、個人の体力や能力に応じて運動処方します。主に身体虚弱者、肥満者、身体障害者および肢体不自由者などを対象としています。（このコースを希望する場合には、事前に体育課へ申し出てください）

なお、本コースに関心のある者の受講も認めますので、積極的に参加してください。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
身障者スポーツ	身体障害者等	半 期	12講時＋レポート

※対象者以外で受講を希望する者は、体育課で相談してください。

E. レクリエーション・スポーツコース

生涯スポーツとして、あるいは楽しい健康生活のために、キャンプやカヌーイングなどの野外活動を体験し、レクリエーション技術と能力を獲得する。

種 目	対 象	期 間	場 所	参 加 費	手 続
集中レクリエーション・スポーツ（キャンプ、カヌー）	男女	7月下旬～ 8月初旬 （2泊3日）	滋賀県 蓬萊	約25,000円	6月

※参加費以外に交通費等が必要です。

F. スポーツトレーニングコース

このコースは、主として体育会に所属している学生を対象としていますが、それ以外の学生で、スポーツに関心のある学生の受講も認めています。内容は、専門的にスポーツを実践し、指導するのに必要なスポーツ科学の理論と実技を学習します。

種 目	対 象	開講期間	単位認定基準
スポーツトレーニング	体育会に所属している学生 および一般学生	半 期	12講時＋レポート

<実習受講に関する注意>

- (1) 単位認定
開講時間は12講時（24時間）＋レポートを原則とします。
- (2) テキスト
必要に応じて指示します。
- (3) 服 装
服装はトレーニング・ウェア（水泳クラスは競技用水着・帽子・ゴーグル）を着用し、グラウンドではグラウンドシューズ、テニスコートはテニスシューズを使用してください。総合体育館・トレーニングルームにおいては、必ず上ばき（体育館シューズ）を使用してください。グラウンドシューズとの兼用は認めません。
- (4) 更 衣
指定された場所で更衣し、盗難防止のため貴重品は、各自、ロッカーに保管してください。特に前期・後期の授業開始直後は盗難が多く発生しています。
- (5) 教 場
グラウンド、コートなどの状態や行事などによって、教場を変更する場合があります。毎時間、総合体育館内掲示板で確認してください。
- (6) 用 具
各種コースの用具は貸与しますが、各自所有の用具を使用することも可能です。ただし、シーズンスポーツコースのスキー用具は各自で準備してください。

(7) 体育館シューズ

総合体育館内で行う種目は、各自で体育館シューズを準備してください。

《注意》

更衣は指定された場所で行うとともに、利用したコインロッカーは必ず施錠してください。前期初めおよび後期初めの約1ヵ月間は特に盗難が多発しています。また、スポーツシューズの盗難も多いので注意してください。

<欠席の取り扱いについて>

- (1) 理由のある欠席届があれば2回までの欠席は認めます。ただし、無届け欠席を2回するとその時点で受講を取り消すことがあります。
- (2) ○クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等、およびゼミ合宿等による欠席は、クラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により公欠扱いとします。
○4回生以上の就職活動（会社訪問・受験）については、就職課の証明により公欠扱いとします。
○忌引については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きをしてください。
- (3) 体育実習の見学（例：風邪、腹痛、頭痛、服装の忘れ物等）は、原則として認めません。

<施設・用具の利用について>

授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止します。ただし、体育実習の自学自習およびスポーツ活動の恒常的実践化奨励のため、一般学生への施設の開放時間を設けています。用具の貸し出しも行いますので、希望者は体育課窓口に応じ出してください。

使用可能場所・時間帯については総合体育館内掲示板等で確認してください。ただし、雨天の場合は屋外で行う授業の代替教場として館内施設を使用しますので、開放は一時中止します。

<集中コース種目のガイダンスについて>

集中コースの授業は、事前にガイダンスを行いますので必ず出席してください。授業と重なる場合は体育課窓口で相談してください。ガイダンス会場は追って掲示します。

- (1) 集中レクリエーション・スポーツ（キャンプ、カヌー）
5月16日（水） 5時限目
- (2) 集中水泳
6月12日（火） 5時限目
- (3) スキー
10月23日（火） 5時限目

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題 I (人権問題概説)	01	後 期	2 単位	寺 木 伸 明
[講義概要・学習目標] 本講義では、人権問題について概論的に説明することになる。まず人権とは何かについて、外国や日本の人権思想の歴史をふりかえりつつ考える。 つついで、現代の世界と日本に存在する人権問題の種類や実態について、具体例をあげながら講述する。 さらに差別と偏見について説明し、両者の関係についても検討を加える。 以上の検討をふまえたうえで、人権問題の解決・人権意識の確立が、平和の達成や社会福祉の充実および地球環境の保護にとっていかに重要な課題であるかということ、またこの課題解決がけっして他人の問題であるだけではなく、いかに自分自身にかかわる課題であるかということを考えていく。 最後に、現実存在する人権問題をどのようにすれば解決できるか、その見直しはどうか、といった問題について考えてみたい。	[講義計画] 1: 人権問題とは何か 2: 人権とは何か 3: 人権思想の歴史 4: 世界における人権問題 ①インドの種差別カースト問題 ②ユダヤ人差別問題 ③黒人差別問題など 5: 日本における人権問題 ①部落問題 ②在日朝鮮人問題 ③障害者問題 ④女性差別問題 ⑤アイヌ民族差別問題など 6: 差別からの解放・人権確立の展望			
[成績評価の方法] 試験の成績に、出席率（数回出席をとる）や感想文の内容を加味して評価する。	[参考文献]			
[教科書] 上田正昭編『国際化の時代の人権問題』明石書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題 I (人権問題概説)	02	前 期	2 単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] 1948年12月に国連が採択した「世界人権宣言」は、その第1条において「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は理性と良心を授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」とうたっている。まことに高邁な理想であるが、こうした理念が現実化していないことは誰の目にも明らかであろう。 そこで、上記のような理念と現実の諸社会に生きている人びとの現実の間には、どのような問題があるのか。そうした「苦悩の現実」を解決するために、どのような取り組みがなされているのか。そうした諸点をできるだけ幅広く解説していくことにする。	[講義計画] (1) 「ひとり」の人間として生きる (2) 「一人前」の社会人になるまで (3) 変革期の社会に生きる (4) 地球の環境をめぐる			
[成績評価の方法] 学年末に実施する「論術式筆記試験」が60%。講義期間中に教室で実施するレポート等が20%。質問や問題提起などによる日常活動が20%。	[参考文献] そのときときに指示します。			
[教科書] 特には指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ 一人権の思想と歴史<世界>—	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	尾本 恵市
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>テーマ：先住民族と人権</p> <p>民族はヒトの文化による区分で、人種は生物学的区分といわれる。しかし、最近の人類学の進展によって、古典的な人種分類は完全に破綻したこと、また民族についても単純な定義は成り立たないことが明らかになってきた。この講義では、まず、人種とは何か、民族とは何かについて概説した後、担当者自身が長年研究を行ったアジアの先住民族の2集団（北海道のアイヌとフィリピンのアエタ）について、その生物学的な由来と植民者による迫害の歴史、現在および将来の人権上の問題点等について講義する。アイヌは、我が国の先住民族であるにもかかわらず、その由来や文化の内容について学校等でほとんど教えられていない現状である。また、アエタは1991年のピナツボ火山の大噴火によって、居住地を失った苦難の状況にある。これらの現状を示すことによって、先住民族の問題を重要な人権問題として考える基礎知識とさらなる勉学への動機を与えたい。さらに、アメリカ先住民やオーストラリアのアボリジニについてもできるだけふれることにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>アイヌおよびアエタの文化や世界観、植民者による迫害の歴史や現在も存在する人権上の問題点、差別撤廃に向けての国際的な取り組みの現状等等について、担当者自身の関与したものも含めビデオ等を多用してわかりやすく講義する。毎回、出席票に質問や感想を書いてもらい、次回に答えるという授業スタイルによって、教師と学生間の双方向的なコミュニケーションを図る。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として出席点およびレポートによって評価するが、状況に応じて試験を実施することもありうる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>萱野 茂他「アイヌ語が国会に響く」草風館（1997） 尾本恵市 「分子人類学と日本人の起源」 裳華房（1996）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>担当者の自著論文等をプリントとして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ（人権の思想と歴史「日本」）	01	前 期	2単位	柳父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本の人権の思想と歴史を、異文化との関わりという視点から考えていく。</p> <p>人権という考え方は西洋で生まれた文化で、やがて世界中に広められた。だから、西洋文化が伝わる前の日本には、西洋文化におけるような一人の人間尊重の思想はなかったわけである。これが出発点である。</p> <p>しかし、それと比較して同じではないが似たような考え方はあった。まず仏教思想である。それから近世のキリシタン、そして近代以後の人権思想である。</p> <p>そして、西洋の人権思想と比較して、日本における「人間」というものについての考え方の特徴も分かってくる。その背景には、中国、インドの思想もある。そういう広い背景から日本の人権の問題について考えていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日本の歴史には、異文化との大きな出会いには、4つのピークがある。まず古代、次に近世、そして近代、現代である。歴史の順序としてはこうであるが、人権の基本的考え方が明らかになったのは現代、とくに日本国憲法であるから、そこから出発して、次に歴史をさかのぼって考えていく、という順に講義していきたい。</p> <p>ビデオをときどき使っていきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義のあとで小テストをする。この小テストと、期末の試験とを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>杉原泰雄著『人権の歴史』 岩波書店 1992</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ(人権の思想と歴史「日本」)	02	後 期	2単位	柳父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本の人権の思想と歴史を、異文化との関わりという視点から考えていく。</p> <p>人権という考え方は西洋で生まれた文化で、やがて世界中に広められた。だから、西洋文化が伝わる前の日本には、西洋文化におけるような一人の人間尊重の思想はなかったわけである。これが出発点である。</p> <p>しかし、それと比較して同じではないが似たような考え方はあった。まず仏教思想である。それから近世のキリタン、そして近代以後の人権思想である。</p> <p>そして、西洋の人権思想と比較して、日本における「人間」というものについての考え方の特徴も分かってくる。その背景には、中国、インドの思想もある。そういう広い背景から日本の人権の問題について考えていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日本の歴史には、異文化との大きな出会いには、4つのピークがある。まず古代、次に近世、そして近代、現代である。歴史の順序としてはこうであるが、人権の基本的考え方が明らかになったのは現代、とくに日本国憲法であるから、そこから出発して、次に歴史をさかのぼって考えていく、という順に講義していきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義のあとで小テストをする。この小テストと、期末の試験とを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>杉原泰雄著『人権の歴史』 岩波書店 1992</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅲ(現代社会と人権)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	生 瀬 克 己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>豊かなはずのわが国にあって、現在、いわゆるホームレスと呼ばれる人びとが、公園や河川敷や駅といった大都会の片隅に増え続けている。このようなことになってきた経過を、まずはふりかえる。そして、このような「現実」の背景に何があるのか。それは何を意味しているのかといった課題の理解をめざす。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ひと」が生きていく場所 2) 「誰」が「どのように」ホームレスになるのか 3) 「何」が解決になるのか 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に実施する「論述式筆記試験(60%)」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート(40%)」の合計点で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指定します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅳ (在日韓国・朝鮮人問題)	01	前期	2単位	キムスギル 金 秀吉
<p>[講義概要・学習目標] 現在、約65万人の韓国・朝鮮人が日本に定住している。この定住者を一般的に「在日韓国・朝鮮人」と称している。また、時には略して「在日」ともいわれる。 本講義を担当する私自身は在日3世であり、その体験を客観的にふまえながら、在日の<過去・現在・未来>を出来るだけ具体的に提示し、その理解と認識を深めていきたい。 その実践として、これまで在日韓国・朝鮮人を素材、またはテーマとして作られた映画(自作『潤の街』『尚美(サンミ)/蜜代』などを含む)や、テレビ・ビデオなどの映像作品をテキストとして利用することにより、在日を取りまく昨今の状況(2002年にサッカーのワールドカップが日・韓共催で行われるというわりには、在日の状況性は、その共催決定前と比べ、あまり進展がないということなど)が、より具現化され、学生各自がそれぞれにとっても身近な課題であるということを理性(知識)にとどまらず、未来の可能性を押しひろげてゆくための感(受)性の領域に対する喚起も探究してゆきたい。</p>	<p>[講義計画] 1 在日韓国・朝鮮人問題とは何か 2 在日の歴史 3 在日の現状 4 在日はどのように表現されてきたか 5 在日をどのように表現するか 6 在日の未来と展望</p>			
<p>[成績評価の方法] 教室での小レポートと、期末のテストを加味して評価する。</p>	<p>[参考文献] 蔵田雅彦(著)「隣人としてのアジア」(日本基督教団出版局) 蔵田雅彦(著)「マイノリティを旅する」(草風館) 田中宏(著)「在日外国人」(新版)(岩波新書) 鄭早苗・徐正禹(監修)「新・よりよき隣人として」(KMJ研究センター) 桃山学院大学(編)「定住外国人の人権」(改訂版)(桃山学院大学)</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅳ (在日韓国・朝鮮人問題)	02	後期	2単位	キムスギル 金 秀吉
<p>[講義概要・学習目標] 現在、約65万人の韓国・朝鮮人が日本に定住している。この定住者を一般的に「在日韓国・朝鮮人」と称している。また、時には略して「在日」ともいわれる。 本講義を担当する私自身は在日3世であり、その体験を客観的にふまえながら、在日の<過去・現在・未来>を出来るだけ具体的に提示し、その理解と認識を深めていきたい。 その実践として、これまで在日韓国・朝鮮人を素材、またはテーマとして作られた映画(自作『潤の街』『尚美(サンミ)/蜜代』などを含む)や、テレビ・ビデオなどの映像作品をテキストとして利用することにより、在日を取りまく昨今の状況が、より具現化され、学生各自がそれぞれにとっても身近な課題であるということを理性(知識)レベルにとどまらず、未来の可能性を押しひろげてゆくための感(受)性の領域に対する喚起も探究してゆきたい。</p>	<p>[講義計画] 1 在日韓国・朝鮮人問題とは何か 2 在日の歴史 3 在日の現状 4 在日はどのように表現されてきたか 5 在日をどのように表現するか 6 在日の未来と展望</p>			
<p>[成績評価の方法] 教室での小レポートと、期末のテストを加味して評価する。</p>	<p>[参考文献] 蔵田雅彦(著)「隣人としてのアジア」(日本基督教団出版局) 蔵田雅彦(著)「マイノリティを旅する」(草風館) 田中宏(著)「在日外国人」(新版)(岩波新書) 鄭早苗・徐正禹(監修)「新・よりよき隣人として」(KMJ研究センター) 桃山学院大学(編)「定住外国人の人権」(改訂版)(桃山学院大学)</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題V（障害者問題）		前 期	2 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 <p>世の中の障害のある人も障害のない人も、それぞれ自分なりの生きる目標がもてて、生きがいのある充実した人生をおくれる社会にするための考え方を「ノーマライゼーション」と呼んでいる。</p> <p>その場合、障害のある人が思うだけ「社会に参入」していくためには、それにふさわしいシステムを社会の側で用意しなければならない。だが、それだけでは、たぶん、十分ではない。障害のある人も、ない人も、それぞれの側から望ましい「共生社会」がどのようなかをみきわめながら、その方向にむかっての、双方からの工夫と努力が必要となってくる。そうした意味での「工夫」と「努力」はどのようなもので、いかにして、それらをなしとげうるかを考えることにしたい。</p>	【講義計画】 <p>障害者の登場する映画をビデオで観て、障害者がどのように映像化されてきたかを考える。そのうえで、その論点や課題を教室でレポートにまとめてもらったり、ディスカッションしたりする。</p>			
【成績評価の方法】 <p>学期末に実施する「論述式筆記試験（60％）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（20％）」、質問・問題提起などによる「日常参加（20％）」。</p>	【参考文献】 <p>そのときどきに指示します。</p>			
【教科書】 <p>とくには指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題VI（部落問題）		前 期	2 単位	寺 木 伸 明
【講義概要・学習目標】 <p>本講義では、まず、人権とは何か、人権問題とは何かを考え、そして部落問題にかぎらず人権問題の解決がなぜ各人の課題になるのかについて検討する。次に、部落問題をなぜ学習するのか、その理由と意義について考える。こうした基礎的理解にのたつて、被差別部落の現状や部落差別の実態について具体的に説明する。ついで、こうした差別がいつごろ、どのようにして始まり、どのように変遷してきたのか、また、厳しい差別の中を部落の人々がどのように生き、闘ってきたかを明らかにしながら、部落解放の展望についても考えていきたい。</p> <p>講義は、ビデオ教材を活用して、具体例をあげながら進めたい。</p>	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権・人権問題とは何か 2. 部落問題とは何か 3. 被差別部落の現状と部落差別の実態 4. 被差別部落に生きて（ゲスト講師予定） 5. 被差別部落の歴史 6. 部落解放運動の歴史 7. 部落解放の課題と展望 			
【成績評価の方法】 <p>テストの結果を成績評価の基本とする。 時々課す小レポートも、考慮する。</p>	【参考文献】			
【教科書】 <p>解放出版社編「部落問題 資料と解説」（解放出版社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題VI (女性問題)		後 期	2 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 <p>多くの人びとは、たがいの異性とともに生きてきた。しかし、その形はその時々で違っていた。そして、近代になって、男女平等がさげられるが、他方では、男性は社会で働く女性は家庭で家事・育児をするというような性別役割が固定化していく。だが、女性が社会に出て活動するのが当たり前の社会になってくると、こうした形態は不都合が多くなっていく。とくに、女性にとってはそうである。そして、それは、男性にとっても「息苦しい」ものである。そこで、男女のそれぞれが精一杯に生きていける社会とはどのようなものかということを考えていきたい。</p> <p>以上のような課題を念頭に置きながら、具体的には、日本映画が描いてきた女性たちの有り様を素材にして検討していくことにしたい。</p>		【講義計画】 1 はじめに――「女性」のことがなぜ問題にされたのか？ 2 前近代から「近代」へ 3 性別役割分業社会の構造と意味 4 女性の現在と過去 5 男性の現在と過去 6 おわりに――われわれの現実と目標		
【成績評価の方法】 <p>学期末に実施する「論述式筆記試験（60%）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（40%）」の合計点で評価する。</p>		【参考文献】 今泉容子『日本シネマの女たち』ちくま新書 1997		
【教科書】 <p>とくには指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題VII (日本の子どもの歴史と人権)		後 期	2 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 <p>最近、「児童虐待」事件が増えていると思えてならない。それだけではなく、「切れる子ども」のことが問題にされたりする。現代の子どもたちを取りまく何がどうなったのだろうか。直接に、上記の課題に答えることはできないが、そうした課題にせまっていくための、いわば、前提として、古代→中世→近世→近代→現代とたどってきたわが国の歴史のなかで、それぞれの時代において、子どもたちはどのようにあつかわれてきたかというような問題について考えてみることにしたい。</p> <p>あわせて、子どもの人権を確立していくために「子供の権利条約」ができていくが、わが国が歴史的に積み重ねてきた子ども観は、この「子供の権利条約」が提起するものとの関係からすれば、どのようなことになるのかといった問題についても検討していくことにしようと思う。</p>		【講義計画】 1) 古代社会の子どもたち 2) 戦乱の社会と子どもたち 3) 幕藩社会の身分制と子どもたち 4) 日本の近代社会の成立と子どもたち 5) 日本近代の戦争と子どもたち 6) 第二次世界大戦の敗北以後の子どもたち		
【成績評価の方法】 <p>教室の内外で書いてもらう小レポート（20%）と学期末におこなう論述式試験（80%）の合計によって評価する。</p>		【参考文献】 必要に応じて紹介することにする。		
【教科書】 <p>特には指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（海域アジアの森と海の文化）	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 「海域社会」という観点からアジアの社会を見直してみる。常識つまり「陸域」中心の観念から自由になることによって見えてくる重要な事柄がいくつかある。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」であり、その海が「生活者の海」であり、海のシルクロードの大幹線が通っているからである。「島の熱帯」の森と海は、国際交易と結びついていっそう重要性を明らかにする。この世界のモンスーンの支配性もまた重要である。こうした海域社会を理解するためのいくつかの手掛かりを考える。 授業はビデオを多用する。映像によって東南アジアの森と海の様々な側面とそこに生きる人々の多様な姿を観ることを通して、その文化の有り様を考えてみたい。	【講義計画】 1. 「島の熱帯」の生態学 熱帯雨林の特徴／その人間にとっての意味／居住適地 2. モンスーン 風向と季節／その重要性 3. 「海域社会」 その特徴／「海域アジア世界」の中の東南アジア／史的展開			
【成績評価の方法】 時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。	【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃園R292.3〕 門田修『海が見えるアジア』めこん 1996〔桃園A292.09〕 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃園A225.9〕 その他教室で時々指示する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ インドの叙事詩		前 期	2単位	小 林 信 彦
【講義概要・学習目標】 通か昔から今日までインド人に親しまれている二大叙事詩を取り上げて、インド文化の一端に触れる機会を与える。最初に扱う『マハーバーラタ』は世界最大の叙事詩であり、全編で20万行から成る。皇位継承をめぐる従兄弟同士の争いの物語であるが、10日間の凄惨な最終戦争に至る対立の経過が登場人物の幼児期に溯って語られる。次に扱う『ラーマヤナ』はインドの国民的英雄ラーマの物語である。皇位継承を妨害されて国を追われたラーマは、旅に出て数々の試練を切り抜けた後に帰国し、国民から圧倒的な支持を受けて皇位に就く。	【講義計画】 まず、叙事詩の挿話の一つである『ナラ物語』を翻訳で読み、次に二つの大叙事詩を日本語要約で読む。テーマの反復という見地から作品の構成を検討し、インドの叙事詩がもともと口頭で伝承されてきたことを明らかにする。			
【成績評価の方法】 ① 三つの作品について、それぞれ要約を提出させる。 ② 学期末に試験を行う。	【参考文献】			
【教科書】 ① 鑑淳訳、『ナラ物語』（岩波文庫） ② 奈良毅他訳、『マハーバーラタ』上、中、下（レグルス文庫） ③ 河田清史訳、『ラーマヤナ』上、下（レグルス文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I インドの社会と文化		後 期	2 単位	小 林 信 彦
[講義概要・学習目標] 10億の人口を擁するインドは、15の言語が公用語として憲法で認められていて、近代国家に不可欠なはずの国語がない。また、民族宗教とも言うべきヒンドゥー教の外に、全く異質な外来宗教であるイスラム教も各地に深く根を下ろしている。インドは極めて多様性に富む文化圏である。ところが一方では、数千年にわたって続く強い伝統文化があって、インド世界の統一を支えている。本年度は19世紀後半のヒンドゥー復古運動に始まる政治と文化の流れをたどって、古典の伝統と現代インドとのかかわりについて説明する。	[講義計画] この科目の目標はインドに関する基礎知識を提供することであるが、文化伝統の一貫性という視点からこれを試みる。			
[成績評価の方法] ① 四週間ごとに講義内容の要約を提出させる。 ② 学期末に試験を行う。	[参考文献] 授業中に複写を配布する。			
[教科書] なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (ベトナムの文化)	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	片 倉 稷
[講義概要・学習目標] この講義では、ベトナムの文化、主としてベトナムのなかの日本、日本のなかのベトナムを考察する。 ベトナムは、東南アジアのなかで歴史的・文化的に日本と深いかかわりを有する地域である。このことは意外に知られていない。この講義では、ベトナムと日本の歴史的・文化的関係を多面的に取り上げ、ベトナムの民族と文化を理解し、あわせて文化交流の実態（摩擦・受容など）について考える素材を提供する。ベトナムは東南アジアに属するが、日本や朝鮮と同じ儒教文化圏の一員でもあり、この地域と民族の研究は、日本などのそれらを、相対化して考えることを可能にする。一次資料を活用し、かつ比較文化論の手法を用いて講義をすすめる。ベトナムの文化、ひいては外国文化を理解するための一助となれば幸いである。	[講義計画] (1) はじめに — この講義の目的・趣旨など (2) 水葬文化をめぐるベトナムと日本その他 — 神話をめぐって (3) 漂流と文化交流 — 阿倍仲麻呂（朝衡）の場合 (4) 漂流と文化交流 — 近世日本人のベトナム漂流の場合 (5) 「大航海時代」の文化交流 — 豊臣秀吉の朝鮮侵略とベトナム (6) 「大航海時代」の文化交流 — ベトナム文献のなかの「白浜頭貴」 (7) 近世日本のなかのベトナム — 長崎のベトナム語通訳 (8) 近世日本のなかのベトナム — ベトナムの象と日本人の異国趣味 (9) ベトナムの留学運動（「東遊運動」） — ベトナムの近代化と日本 (10) ベトナムの革命家ファン・ボイ・チャウと浅羽佐喜太郎 (11) 強靱で、しなやかなベトナム人を考える — ベトナムの古典文学『金雲翹』 (12) おわりに — 質疑応答、授業のまとめ			
[成績評価の方法] 出席状況、期末試験あるいはレポートにより評価する。	[参考文献] アジア・アフリカ研究所編『ベトナム』上下、水曜社、1977・1978年 吉沢南『ベトナム 現代史のなかの諸民族』朝日新聞社、1982年 桜井由躬雄『もっと知りたい ベトナム』弘文堂、1989年 和田正彦『近現代の東南アジア』放送大学教育振興会、1991年			
[教科書] とくにない。プリントを配布して授業をすすめる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I インドネシアの文化概観	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	北 野 正 徳
[講義概要・学習目標] この授業は、東南アジア諸国のひとつであるインドネシア共和国の文化について概観する。講義は、東南アジアの概観とインドネシアの紹介に始まり、次いでこの国の社会、歴史、そして文化について概観してゆく。とりわけ、近現代の歴史と今日の文化のあり方との関連について注目することを目指したい。講義を通じて、広い意味で、社会・文化圏としての東南アジアとインドネシアについて、より具体的な知識と理解を獲得することが望まれている。	[講義計画] ① 東南アジアの紹介 ② インドネシアの紹介 ③ 社会や文化の成り立ち ④ 近現代史（同時代の社会動向も含む） ⑤ 同時代の文化（文学・音楽・映像メディアなど）			
[成績評価の方法] 出席・授業態度・学期末のレポートなどを総合して評価する	[参考文献] 石井米雄（監修）『インドネシアの事典』 同朋舎 綾部恒雄・石井米雄（編）『もっと知りたいインドネシア』 弘文堂 池浦雪浦（編）『東南アジア史 II 島嶼部』 山川出版社 小池誠 『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化』 三修社			
[教科書] 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (現代アジアの民族と文化)		前期	2 単位	松村 嘉久
[講義概要・学習目標] 現代アジアには多様な民族が様々な状況のなかで生活している。情報化社会が定着していくなかで、現代アジアで生活する人々の情報もあふれているが、マスメディアを通して構築された彼らのイメージと、彼らの等身大の現実にはいまなお大きな隔たりが存在することも事実である。 この講義では、アジア地域、特に多民族国家・中国の民族事情を中心に、近年の経済発展を背景とした社会・文化・政治にかかわる諸問題も紹介しつつ、現代アジアに生活する人々の等身大の姿に迫りたい。 この講義では、異なる文化や地域の実態を学ぶことにより、豊かな国際感覚を身につけるとともに、自らがよりどころとしている文化や地域を相対化する視点の習得をめざす。	[講義計画] 本講義はおおよそ以下のような内容で進める予定である。ただし、受講生の要望も聞きながら、随時、タイムリーな時事問題なども講義に取り入れたいので、内容および講義の順序に変更もありえる。 01. 中華世界のなりたちー「漢族」とはなにかー 02. 現代中国の少数民族と民族政策 03. 雲貴高原の少数民族と定期市 04. 中央アジア諸国と「新疆」ー揺れ動くイスラム社会ー 05. モンゴルの内と外ー遊牧民の現在ー 06. チベットの過去・現在・未来 07. 華人・華僑からみたアジア 08. 現代中国観光事情ーエスニック・ツーリズムを中心にー 09. 大メコン圏構想の現状と課題 10. トルコのなかのヨーロッパ、ヨーロッパのなかのトルコ 11. 混沌の国インドの映画事情 12. 多民族国家日本の現状			
[成績評価の方法] 講義時間内にたびたび小レポートの提出をもとめ、その内容を平常点とする。学期末に試験を行ない、上記の平常点とあわせて総合的に評価する。	[参考文献] とりあえず、①可児弘明・国分良成・鈴木正崇他編著『民族で読む中国』朝日新聞社、1998年、②毛里和子『周縁からの中国ー民族問題と国家ー』東京大学出版会、1998年、を挙げておく。あとは講義のなかで、適宜参考文献を紹介する。			
[教科書] 松村嘉久『中国・民族の政治地理』晃洋書房、2000年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（西洋化問題の日韓比較）	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	チョン ソンヒ 田 星 姫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「西洋化」問題を手がかりに、19世紀後半の日韓関係史の知識を深める。</p> <p>前半は、外交使節の記録を通して、一足先に西洋化していた明治時代の日本を朝鮮人がどう見ていたのかを検討する。</p> <p>後半は、髪形の変容を近代化問題と結びつけて論じてみたい。</p> <p>幕末・明治初期の日本と日清戦争直後の朝鮮における「断髪」を比較し、両国における「断髪」の相違、またその関連性を検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 鎖国から開国への時代背景 新しい日朝外交関係・日朝修好条規 衛正斥邪派と「開化」 第1次修信使の派遣経緯 外務省作成に視察計画・第1次修信使の日程 第1次修信使の日本認識 第1次修信使の見た明治日本について 日本による「富国強兵」勧告をめぐって 近代文明との出会い 第1次修信使に関する日本の新聞記事 万延元年の遣米使節に関するアメリカの新聞記事 明治政府の「断髪」政策 「断髪」説得の理由・「断髪」の実施方法 朝鮮の近代化努力と「断髪」 甲午改革の内容・「断髪」の実施方法 朝鮮の「断髪」に含まれる政治的意味 日本の「断髪」との関連性など 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主にレポート評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>姜在彦『朝鮮近代史』平凡社ライブラリー</p> <p>上垣外憲一『ある明治人の朝鮮観』筑摩書房</p> <p>劉香織『断髪』朝日新聞社（朝日選書）</p> <p>その他、授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業中、適宜プリント配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ アメリカン・ドリーム	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	谷 本 泰 三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「アメリカン・ドリーム」をテーマにして初期のアメリカの歴史を見て行く。</p> <p>最初ヨーロッパからアメリカ大陸へ移住してきた人達はどのような夢を抱いて、果てしない大海、大西洋を渡ったのだろうか。夢を実現しようとして、どのような努力をし、どのような苦勞があったのだろうか。栄光と挫折が交錯する様子を、見ながら初期の歴史を辿る。「アメリカン・ドリーム」を許されなかった人たちの現状にも注目する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 序論 2-4 Puritan たちの夢と現実 5-7 Puritanism からの離脱 新国家建設への夢 8-9 独自の文化樹立への夢 10-11 アメリカン・ドリームの外に立たされていた人たち 12 予備 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験および平素の努力点</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Winton U. Solberg (著) <i>A History of American Thought and Culture</i> (金星堂)</p> <p>谷本泰三(著)『講義アウトライン』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ (映像で見る世界の民族)		前 期	2 単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] 本学の理念である世界市民の養成のために、われわれ日本人は世界の多様な民族や文化についてもっと知らねばならない。そのための第一歩として、「百聞は一見にしかず」というように、映像によって世界の様々な民族集団の生活や文化を視覚的にとらえるのがよい。文化の多様性のみならず、ヒトは様々な環境条件のもとで身体的にも著しい地理的多様性を示す。この授業では、学生に、ヒトの文化的・身体的多様性に関心を持ち、人種や民族に対する差別がいかに根拠のないものであるかを理解してもらうことを目標とする。	[講義計画] 原則として毎週、世界の様々な民族集団に関するビデオ映像記録を見て、出席票に質問または感想を書き提出する。質問には、次の週にできるだけ答えることによって、教師と学生間のコミュニケーションを図る。なお、前期はとくにアフリカとヨーロッパ地域、また後期にはとくにアジア・太平洋およびアメリカ地域に重点をおき、主として伝統的文化について見る。			
[成績評価の方法] 出席点、レポートおよび試験によって採点する。	[参考文献] 川田順造 編「アフリカ入門」 新書館（1999）			
[教科書] なし。必要な資料があればその都度プリントとして配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ (欧米の社会・民族・文化)		前 期	2 単位	松村 嘉久
[講義概要・学習目標] 「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われるが、現在、我々は様々なジャンルの現代ポピュラー音楽を聴き消費している。こうした現代ポピュラー音楽には、特定の民族的特色をそなえた音楽を起源として、ある地域における社会的・文化的・政治的脈絡のなかで成立し、その後の時代の流れとともに、民族や国家をこえて伝播し変容し洗練されてきたものが少なくない。この講義では、現代ポピュラー音楽が成立し展開していく過程をたどりながら、その背景となった社会的・文化的・政治的脈絡に言及し、異なる地域や異なる文化への理解を深めることを目的とする。具体的には講義計画に示したように、アメリカ黒人音楽を中心に、ジャマイカ音楽・スペイン音楽などをとりあげる予定で、AV資料（映画・ビデオ・CDその他）なども適時利用する。受講生には講義内容に関する「意見・感想」および小レポートの提出を頻繁に求めるので、積極的に参加してほしい。	[講義計画] 講義はおおよそ以下のような内容で進めていく予定である。講義の順序やタイトルなどは変更することもある。 01. ブルースとブルーであることー聖なる歌と悪魔の歌の誕生ー 02. 二つの世界大戦とブルースの変容ー都市に根づく黒人共同体ー 03. 公民権運動のうねりとソウルの誕生 04. ウッドストックから1960年代のアメリカを見る 05. ディキシー、スウィング、バップ、モードージャズの系譜ー 06. 一つのコードが世界を揺るがしたーロックンロールの誕生と発展ー 07. ディスコダンス音楽からラップまでー「夢見て破れた」黒人社会ー 08. ボブ＝マーリーが夢見た第三世界ージャマイカ音楽史ー 09. フラメンコはなぜスペインのアンダルシアで誕生したのか 10. 現代ポピュラー音楽研究への誘い			
[成績評価の方法] 上記の「意見・感想」や小レポートを平常点として、学期末レポートとあわせて総合的に判断する。	[参考文献] 講義のなかで、適宜指示する。			
[教科書] 教科書は使用しない。適宜、プリントなどを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 文化としての科学		前 期	2 単位	鈴 木 善 次
【講義概要・学習目標】 今日、私たちが享受している文明を称して、科学文明という。人々の生活の中に科学技術が深く浸透していることと、人々が「科学的」に考えることを是としていからである。その科学文明は私たちに「豊かな」生活を与えてくれた一方で「環境問題など」を生じさせている。 本講義では、この科学文明を問い直すために、この文明の起原にまで遡ることで、その特徴などを検討してみる。具体的には古代ギリシア時代、中世、そして17世紀における「科学」活動を扱う。とくに17世紀を中心に取りあげ、その見えてくるものは、近代科学とキリスト教との関係であり近代科学がキリスト教文化圏の産物であるということである。そのことと学生諸君に理解してほしい。	【講義計画】 1. 科学とは何か 2. 古代文明と科学 3. キリスト教と科学 4. 人間にとって科学文明とは。			
【成績評価の方法】 授業中にレポートを提出してもらう。期末テストの結果と そのレポート内容を総合して評価する。	【参考文献】 渡辺正雄著『文化としての近代科学』(講談社学術文庫)			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 近代インド社会の諸相	0 1	前 期	2 単位	村 上 昌 孝
	0 2	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 インドでは、古代以来、ブラフマニズムに由来する宗教であるヒンドゥー教が優勢を保っていたが、中世以後、西北インドから、徐々にイスラム教の影響を受けるようになった。イスラム教徒のインドへの進入や支配を通じて、近代には、北インドを中心に、ヒンドゥー教とイスラム教とが混在するに至った。二つの全く性質の異なる宗教が併存する状況下で、両者間の摩擦が生じるのはもちろんのことだが、これらを融合しようとする試みもなされた。宗教を原因として発生したさまざまな事例を検討することを通じて、異文化併存の問題を学習することを目的とする。	【講義計画】 ヒンドゥー教とイスラム教に関する概説の後、中世から近代にかけて、両者がインド社会に併存するようになった過程を取り上げる。その後、ヒンドゥー教とイスラム教とが併存することによって生じた、近代インド社会での摩擦や融合の努力など、個々の事例を検討していく。			
【成績評価の方法】 平常点とレポートにより評価する。	【参考文献】 荒松雄『ヒンドゥー教とイスラム教 ―南アジア史における宗教と社会―』、東京、1977。			
【教科書】 講義の際に資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 民族と紛争		前 期	2 単位	小 池 誠
【講義概要・学習目標】 今日、世界中あちこちの異なる民族の間で、文化（言語・宗教）の違いを理由として深刻な対立と紛争が勃発している。民族が異なると共に生きていくことが困難であると語られることも多い。本当に民族の共存は不可能なのか？世界各地で勃発している民族対立と紛争を例に取り上げて、いかなる状況の下で異なる民族の間で憎悪や対立が生まれ、そしてそれがどんな道筋をたどって紛争や内戦にまで発展していくのか、考えていきたい。21世紀に入っても、なお人類が直面する民族紛争の問題を文化人類学の視点から解き明かしていく。この問題を「遠い外国」の話ではなく、より身近なこととして考えてもらうために、日本国内の民族問題も取り上げたい。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。		【講義計画】 1 民族とは何か？（民族問題へのアプローチ） 2 日本の先住民、アイヌ 3 インドネシアの民族問題（アチェ・アンボン） 4 東ティモール問題 5 旧ユーゴの民族問題（ボスニア・コソボ紛争） 6 アフリカの民族紛争（ルワンダ内戦） 7 日本のなかの「外国人」		
【成績評価の方法】 試験の成績を基本にして評価する。ただし、必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。		【参考文献】 講義のなかで必要に応じて紹介する。		
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ（日英文化交流史）	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	遠 山 淳
【講義概要・学習目標】 イギリス文化が日本に与えた影響について学ぶ。日英文化交流史を講じ、英国や米国の背景にあるアングロ・サクソン文化の特性を求める。 幕末・明治維新以降、イギリスは日本に大きな影響を与えてきた。この講義では、ユーラシア大陸の東西の両端にあって、一見似た環境にある両国の類似点と相違点を求めてみたい。また、日本人側にある／あった「イギリスびいき／イギリス嫌い」についても考えてみたい。		【講義計画】 1. 英国の成り立ち：地理と歴史 2. 薩摩藩士の英国留学 3. 岩倉使節団と明治日本の国制モデル 4. お雇い外国人と日本の国造り 5. 太平洋戦争と戦後 6. 「追いつき・追い越せ」が終わって		
【成績評価の方法】 期末に試験またはレポートを課し、総合的に評価する。		【参考文献】 授業中に紹介する。		
【教科書】 今井 宏著『日本人とイギリスー「問いかけ」の軌跡』筑摩書房、1994				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ これからの日本文学	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	三 浦 俊 介
【講義概要・学習目標】 右記の講義計画を見ると、その前半部はまるで「文学史」の講義のようであるが、本講義が目指しているのはあくまでも「文学の面白さの再発見」である。各時代の文学作品を用いながら、文学的な発想や表現の妙、絵画や芸能・祭祀との関連などを総合的に考えたい。学生諸君にはできるだけ多くの文学作品を読んでもらいたい。本講義では、文学とは何か、21世紀に文学は生き残れるのかを大いに議論したい。	【講義計画】 1 文学とは何か 2 上代 3 中古 4 中世 5 近世 6 近代 7 近現代 8 口承文芸 9 歌謡 10 奈良と文学 11 京都と文学 12 女性と文学 13 芸能と文学 14 絵巻と文学 15 マンガと文学			
【成績評価の方法】 ①出席を毎回取る。出席回数の少ない者は不合格とする。 ②試験の成績を重視する。毎回出席していても不合格はあり得る。	【参考文献】 多数に及ぶので、講義中に随時紹介する。			
【教科書】 丸山顯徳ほか編『これからの日本文学』金壽堂出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ フランス文学とその背景		前 期	2単位	中 所 聖 一
【講義概要・学習目標】 わたしたちが一つの国（地域）の文化を理解しようとする際、現在、表層に現れている現象を解釈する他に、そこに残されてきた、いわゆる古典を知るという方法も有効であるに違いありません。この授業では、フランス文学の基盤であるケルト文化、ギリシア・ローマ文化、そしてキリスト教を意識しつつ、18世紀までの主要作品を概観します。個々の作品解釈にとどまらず、それらを通して、その時々々の社会および思想的背景をみなさんに汲み取ってもらいたいと思います。それゆえ、授業で取り挙げる作品は必ずしも純粋な文学作品とは限らず、時事的なもの、いくぶん哲学的なものも含まれますが、作品のタイプに応じて、文学作品分析のモデルを、あるいは、語られる思想の意味するところを提示してゆくこととなります。それらをあくまでも大きく、流れとして把握することによって、フランス文化（フランス的思考）を理解してもらいたいと考えています。	【講義計画】 ①フランス文学の基盤 ②伝説から物語へ ③ルネサンス期におけるユマニスムと荒唐無稽 ④「理性」と「情念」 ⑤啓蒙思想と教育小説			
【成績評価の方法】 必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します。	【参考文献】 渡辺一夫・鈴木力衛 著、『増補 フランス文学案内』、岩波文庫。他は、授業時に紹介する。			
【教科書】 なし。随時、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																												
世界の文化IV (芸術・言語・西進観の比較)	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	テレンス オブライエン Terence J. O'Brien																												
[講義概要・学習目標] This course is a series of lectures in English. However, I will try to make the course easy to understand so if you have a little confidence in your English, why don't you try to listen to these lectures? The aim of the course is to give students an insight into some differences between the countries of Japan, the UK and the USA. I will talk about their cultures, their societies, their art, and their social values. Students are expected to listen carefully and to take notes during the lectures. Students should also think carefully about the points raised in the lectures.	[講義計画] <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>7</td> <td>Social history (i)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Japan - UK, a comparison</td> <td>8</td> <td>Social history (ii)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Churches</td> <td>9</td> <td>The start of pop music</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Houses</td> <td>10</td> <td>Art (i)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Bathrooms</td> <td>11</td> <td>Art (ii)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Test</td> <td>12</td> <td>Time</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13</td> <td>Test</td> </tr> </table>				1	Introduction	7	Social history (i)	2	Japan - UK, a comparison	8	Social history (ii)	3	Churches	9	The start of pop music	4	Houses	10	Art (i)	5	Bathrooms	11	Art (ii)	6	Test	12	Time			13	Test
1	Introduction	7	Social history (i)																													
2	Japan - UK, a comparison	8	Social history (ii)																													
3	Churches	9	The start of pop music																													
4	Houses	10	Art (i)																													
5	Bathrooms	11	Art (ii)																													
6	Test	12	Time																													
		13	Test																													
[成績評価の方法] Students' grades will be calculated from (i) attendance and (ii) from two tests. In these tests you will write essays in English, but you may use your class notes and your dictionaries.	[参考文献]																															
[教科書] I will give you some prints during each lesson.																																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (映画の歴史・映像表現論Ⅰ)	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	水 口 薫
[講義概要・学習目標] 人間は、言語、文字、絵画、写真のメディアを発明、記録表現してきた。そして、これらのメディアと違い、時間経過を記録、再生できる映画（映像）が誕生して一世紀が過ぎた。映画は、コミュニケーション（伝達）の手段として、表現方法、映画言語を生みだし、芸術が生まれた。そこには、民族の歴史、文化、習慣が色濃く現れている。 本講義では、動く絵の原理、映画の発明、その歴史、映画言語を学び、映画を見ることによって、人間を異文化を理解するためのメディア・リテラシー（映像の読み書き能力）を身につけることをめざす。	[講義計画] 「映画の歴史」 1. 動く映像とは？ 目の残像現象について 2. 映画の発明 エジソンとリュミエール兄弟 3. 映画限とは？ グリフィスとエイゼンシュテイン 4. 映画の発達 サイレントからトーキーへ 5. 映画のジャンル 6. 劇映画と記録映画 レニ・リーフェンシュタール 7. 映画監督・作家について チャップリン 8. 日本映画 溝口健二、小津安二郎、黒澤明 9. 映画のスタッフ キャメラマン宮川一夫 10. メディア・リテラシーとは？			
[成績評価の方法] 出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート形式の定期試験にて総合評価。小テストの欠席3回の者は不合格。	[参考文献] 『映画の教科書 どのように映画を読むか』 ジェームズ・モナコ（著）岩本憲児、内山一樹、 杉山昭夫他（編）（フィルムアート社） 『メディア・リテラシー マスメディアを読み解く』 カナダ・オンタリオ州教育省（編） FCT（市民のテレビの会）（訳）（リベルタ出版） その他、講義のときに提示する。			
[教科書] 適時、プリントを配布。受講者多数の場合は変更。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界 の 文化 IV (キリスト教音楽の変遷 I)		前 期	2 単位	堀江光一
[講義概要・学習目標] ミサ曲、クリスマス・カロルなど、キリスト教に音楽は欠かせません。 この講義では、聖書の時代から今日までの、聖歌・賛美歌の歴史を辿ってゆきます。 「ことば(words)」と「ふし(tune)」が結びついて生まれる、すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？	[講義計画] 時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。 音源は録音物が主ですが、週によっては、チャペルのパイプオルガンも使います。 この時間では毎回音楽を聴くので、授業中勝手にしゃべりたい人は来ないで下さい。			
[成績評価の方法] 学期末に、レポートまたは作品を提出してもらいます。 出席は採りません。	[参考文献] 必要に応じて紹介します。			
[教科書] 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界 の 文化 IV (キリスト教音楽の変遷 II)		後 期	2 単位	堀江光一
[講義概要・学習目標] キリスト教音楽は、「西洋式」音楽の一方の親でもあります。 この講義では、ドレミやハ長調の成り立ち、バロックからロックに至る様式の変遷など、「西洋式」音楽が育てられた歴史を辿ります。すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？	[講義計画] 時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。 音源は録音物が主ですが、週によっては、チャペルのパイプオルガンも使います。 この時間では毎回音楽を聴くので、授業中勝手にしゃべりたい人は来ないで下さい。			
[成績評価の方法] 学期末に、レポートまたは作品を提出してもらいます。 出席は採りません。	[参考文献] 必要に応じて紹介します。			
[教科書] 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（平安文学とジェンダー）	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	深 澤 徹
〔講義概要・学習目標〕 日本の古典文学の代表とされる平安文学は、主に女性によって書かれたものとして知られている。世界の文学の歴史からすると、これは極めて異常である。ではなぜこの当時、女性が文学をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その辺の事情を、当時の社会構造をふまえながら明らかにし、そうした背景が、この文学テキストにどのように影響を与えていったについて論ずる。扱うテキストは、主に「日記文学」や「源氏物語」だが、必要に応じてその周辺のテキストにも言及していくつもりである。	〔講義計画〕 1. 文化とジェンダー概念 2. 日本美術のジェンダー的特質 3. 戦後の日本文学観 4. 近世国学による文化概念の形成 5. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想 6. 仮名文の無根拠性と文字の物神化			
〔成績評価の方法〕 試験の成績と出席状況を合わせて評価する。	〔参考文献〕 教場で指示する。			
〔教科書〕 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ フランスの近代小説		後 期	2単位	中 所 聖 一
〔講義概要・学習目標〕 小説の世紀であったとも言える19世紀から、小説が読まれなくなったと言われる現代にかけての主要な小説作品を読み解いてゆきます。それによって、小説の内容や技法そのものの変遷はもちろん、人間観・世界観の変化、また、特に20世紀における希望の困難さが鮮明になるでしょう。この授業では、基本的にフランスの小説という枠内で講義を行います。小説の多くは、個々の作品解釈にとどまらず、その時々を社会的および思想的背景を知ることが要求されます。それゆえ、小説ではない作品（かなり哲学的な作品）も扱いますが、作品に即して、文学作品分析のモデルと多様性を、あるいは、語られる思想の意味するところを理解していただきたいと思います。	〔講義計画〕 ①ロマン主義の小説 ②リアリズムおよび自然主義の小説 ③ベル・エポックの文学 ④シュール・リアリズム ⑤実存主義の文学 ⑥ヌーヴォー・ロマンとその後			
〔成績評価の方法〕 必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します。	〔参考文献〕 授業時に紹介する。			
〔教科書〕 なし。随時、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 IV (異文化交流における日本)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	柳父 章
[講義概要・学習目標] 日本文化は本質的に外国文化の影響で成り立っている。このことは従来の学問では過小評価されてきた。たとえば日本史は日本自体の内部的必然によって形成されてきた、というのが常識だった。本講義では、日本の文化を中心として、それがどれほど異文化の深い影響で出来てきたか、を考えていきたい。とくに鎖国時代は固有の日本文化形成期であったと言われるが、実はキリシタン文化の、いわば負の影響の結果であった、ということに焦点を宛てたい。	[講義計画] 時代順に、まず古代、中国文化の影響で、大和国家、天皇制が成立した。次に近世のキリシタン渡来、その弾圧、その結果による島国文化の形成。やがて黒船の出現、そのショックと西洋モデルによる近代日本の形成。そして昭和の敗戦と圧倒的アメリカ文化の影響が今日まで続いている。			
[成績評価の方法] 随時講義のあとで小テストをする。この小テストと、期末の試験とを総合して評価する。	[参考文献] 私自身の文化や、異文化交流についての著書があるが、講義の中でときどき紹介していきたい。			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (樋口一葉の処女作『闇桜』)		前 期	2単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標] 22編の短編小説を残し、わずか24歳で、この世を去った、明治時代の女流作家、樋口一葉の処女作、「闇桜」を読む。樋口一葉といえば、「たけくらべ」が有名であるが、彼女が小説に何を求めたのか、初めての小説から、彼女の原点を探ってみたい。	[講義計画] 担当者を決めて発表させ、質疑応答と討論で授業を進めるので、発表者以外にも積極的に意見を述べてほしい。			
[成績評価の方法] 毎時間、初めの15分間程度で、その日の授業の範囲について、意見を述べさせるレポートを書かせ、平常点とする。出席を重視し、期末試験に、授業中の発表、態度を加算する。	[参考文献] 『樋口一葉全集・第一巻』筑摩書房。			
[教科書] 樋口一葉「大つごもり・十三夜 他五編」岩波文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (樋口一葉の『われから』)		後 期	2 単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標] 22 編の短編小説を残して、わずか 24 歳で、この世を去った、明治時代の女流作家、樋口一葉の最後の作品、「われから」を読む。彼女の作品中、最も完成度の高いのは、「にぎりえ」であるが、「われから」と、その前作の、未完に終わった「裏紫」は、女であっても、男と同じく、人間として生きようとした女主人公達の、その後を暗示している。我々の生き方にも照らし合わされる。	[講義計画] 担当者を決めて発表させ、質疑応答と討論で授業を進めるので、発表者以外にも積極的に意見を述べてほしい。			
[成績評価の方法] 毎時間、初めの 15 分間程度で、その日の授業の範囲について、意見を述べさせるレポートを書かせ、平常点とする。出席を重視し、期末試験に、授業中の発表、態度を加算する。	[参考文献] 『樋口一葉全集・第二巻』筑摩書房。			
[教科書] 樋口一葉『たけくらべ・にぎりえ』角川文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (日本文化論の功罪)	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] ナショナリズムには様々な側面があるが、そのもつともソフトな形態に「文化としての日本主義」がある。文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。扱対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説だが、適宜時代を遡らせて、「国民国家」の創生へ向けての日本の足取りをたどることになるだろう。	[講義計画] 1. 国民国家のモデル形成 2. ドイツのフィヒテとフランスのルナン 3. エスニックナショナリズム段階 4. 創造型ナショナリズム段階 5. 再構築型ナショナリズム段階 6. 歴史修正主義と自由主義史観			
[成績評価の方法] 試験の成績と出席状況を合わせて評価する。	[参考文献] 南博著『日本人論—明治から今日まで—』(岩波 1994)			
[教科書] 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (近現代大阪の歴史)	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	佐賀 朝
[講義概要・学習目標] 近代(明治維新～第二次世界大戦終結)の大阪の歴史について概述する。 その際、近代における巨大都市としての大阪の形成・展開とそれが抱えた矛盾という点を軸にすえて論じる。また大阪の社会を、そこに日々働き、暮らす人々の労働・生活の場として捉え、民衆の視点からその歴史的展開を見ていく。 以上の作業から、①わたしたちが日々暮らし、学んでいる場である現代大阪の歴史的成り立ちとその問題点について考えるとともに、②地域社会の歴史の流れを、発展と矛盾の両側面から大きく捉えることを通じて、歴史学の基礎的な方法を実践的に学ぶことをめざす。	[講義計画] おおむね以下の内容に沿って進める。 概観・近世の大阪 巨大城下町/近世の都市行政/近世の大阪経済/幕末の大阪 明治前期の大阪 近世城下町の解体/近代都市の形成/資本主義の形成/民衆生活の諸相 明治後期の大阪 大阪市の成立/近代産業の発展/近代都市の建設/都市社会問題の発生 大正期の大阪 世界大戦と大阪経済/都市問題の激化/都市政策の形成/社会運動の発展 昭和戦前・戦中期の大阪 「大大阪」の誕生/モダン都市大阪/都市問題の深刻化/戦争と大阪			
[成績評価の方法] 出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。	[参考文献] 『新修大阪市史』第5巻～第7巻(1991～94年) 芝村篤樹『関一—都市思想のパイオニア—』(松籟社、1989年) 小山仁示・芝村篤樹『大阪府の百年』(山川出版社、1991年) 原田敬一『日本近代都市史研究』(思文閣出版、1997年) 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』(青木書店、1998年) 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』(松籟社、1998年) その他、授業のなかで随時、提示する。			
[教科書] 特定のものは定めない。必要な資料は授業のなかで随時、配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (古代ジャワの社会と歴史)	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	深 見 純 生
[講義概要・学習目標] 日本とだいたい同じ約二千年の歴史のある東南アジアのなかでもジャワではとくに高度な古代文化が発達した。世界最大の仏教遺跡として有名なボロブドゥル遺跡や東南アジアでもっとも古い書物である古代ジャワ語の『ラーマヤナ』はその象徴である。この講義ではこうしたジャワの古代文化を紹介しながら、その歴史と社会について考えていく。 ジャワ史の背景として生態学的な特徴はたいへん重要である。そのうえに展開した古代の歴史では統一国家の形成、政治と文化の中核の移動、アジア交易ネットワークのなかのジャワの中心性、王権論の展開、<唯一神>創造の試みのかずかずなどが重要なテーマとして浮かび上がってくる。余裕があれば権力の正統性と知識人の役割についても取り上げたい。	[講義計画] 1. 火山島の奇跡 — 居住最適地としてのジャワ 2. 王権の発生 3. 統一権力の形成 4. 王権思想 — ボロブドゥルの時代 5. 中部ジャワ時代の終焉 6. 「太平の閩婆」 — 交易ネットワークの中心 7. 征服王の時代 — 島嶼世界の盟主 8. 支配イデオロギー—<普遍原理>を求めて			
[成績評価の方法] 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。	[参考文献] 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997(桃図R292.3) 池端雪浦編『変わる東南アジア史像』山川出版社 1994(桃図223) デュマルセ、ジャック著 藤木良明訳『ボロブドゥール』学芸出版社 1996(桃図522.3) その他教室で時々指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ (中国近世の社会と文化)		前期	2単位	松浦典弘
<p>【講義概要・学習目標】 中国史上近世と称される宋以降、アヘン戦争以前の時代の社会・文化について考察する。8世紀半ばから10世紀にかけて大きな変革を被った中国は、続く宋から元にかけての時代には高い文化水準を誇り、この時期を「中国史上のルネサンス」と称した歴史学者さえいる。そのような高い文化水準を誇った宋・元時代、それを引き継いで発展させていった明・清時代の社会・文化を検討する。19世紀以降の「近代化」については、中国は西洋に遅れをとることになるが、その点も関連付けて触れてみたい。</p>				<p>【講義計画】 中国の近世とは 中国近世の都市 塩・茶の専売制度と中国社会 士大夫と胥吏 庶民文化の発展</p>
<p>【成績評価の方法】 期末試験</p>				<p>【参考文献】 授業中に適宜する。</p>
<p>【教科書】 使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ (中国文化と日本)		後期	2単位	松浦典弘
<p>【講義概要・学習目標】 古来、わが国は中国から大きな影響を受けてきた。7世紀から15世紀にかけての時期の日中交渉について扱い、中国の文化が日本に与えた影響について考察する。制度、仏教、書物など中国からもたらされた有形無形の事物を紹介し、さらに両国の関係のあり方にも検討を進めていきたい。</p>				<p>【講義計画】 隋・唐と日本—遣隋使・遣唐使など 宋と日本—日宋貿易・入宋僧など 元と日本—元寇・日元貿易など 明と日本—日明貿易など</p>
<p>【成績評価の方法】 期末試験</p>				<p>【参考文献】 授業中、適宜紹介する。</p>
<p>【教科書】 使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ (海域アジアの歴史を読む)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	深 見 純 生
[講義概要・学習目標] この講義は「海域アジア社会」というものを考えながら歴史資料も読もうとする、ちょっと欲張った試みである。具体的には海のシルクロードに関する歴史資料を読みながら、その様々な背景を考える。「陸域」中心史観によるシルクロード史でなく、「海域社会」という観点からアジアの地域間交易の歴史を見直す試みである。「陸域」中心の常識的な観念から自由になることによって、重要な事柄がいくつか見えてくるはずである。 海のシルクロードの歴史を東南アジアを中心に見ていくことになる。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が国際交易つまり海のシルクロードと結びついたのである。 史料は東南アジアを中心とする海のシルクロードに関わるもので、できるだけ日本語訳されたものを配付し、解説を加える。	[講義計画] 1. 海域アジア世界と「島の熱帯」 海域アジア世界/東南アジア＝「島の熱帯」/モンスーン/海國 付 海域アジア世界のなかの日本 2. 海のシルクロード成立以前 大秦（ローマ）の幻人 3. 海のシルクロードの成立 法蘭の航海 4. マラッカ海峡の交易帝国 シュリーヴィジャヤ＝室利仏逝の時代 5. 広州の繁栄、アラブ・ペルシア商船の活躍			
[成績評価の方法] 時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。	[参考文献] 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』 弘文堂 1997〔桃図R292.3〕 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.9〕 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989 〔桃図A209〕 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃図A209〕 その他教室で時々指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ (中央ユーラシアの遊牧社会)		前期	2単位	原山 煌
[講義概要・学習目標] 中国周辺には古来「四夷」と呼ばれる人たちがいた。「東夷・南蛮・西戎・北狄」などといわれるそれらは、それぞれ蛮人を意味する言葉である。 中国世界とその周辺地域における歴史の展開は、中華と自認する漢民族と、彼らから「夷狄」と呼ばれた人々との間に生じた葛藤によって動かされてきたとみることができる。 このうちでも、特に強い勢力を持ち、中国世界に多大の影響を与え続けたのが、北方の騎馬遊牧民族である。農耕社会とは全く異なる独特の環境に住むこれらの人々に注目して、その生活のありよう、彼らの歴史の変遷、産み出した文化などについて分かりやすく述べて行きたい。 講義は毎回独立したテーマを設け、1回ごとに完了するやりかたを進める（「読み切り」方式とでもいうべきか）。理解をたすけるために随時担当者作成のプリントを配布する。このように授業が進められるので、最初から聞いていないと、重要なテーマ設定・まえおきなどがぬけてしまい、内容が理解しえなくなる。だから原則として遅刻は認めない。また授業中に私語をしたり、携帯電話を机に出すものについては、受講者名簿から除名するのでその方針を了解したうえで履修登録をされたい。	[講義計画] 1. 授業の方針と講義全体の構想の説明 2. 遊牧とは 3. 騎馬とは 4. 騎馬遊牧民の世界 5. 剽悍な「夷狄」、騎馬遊牧民 6. スキタイと匈奴 7. 中華と「夷狄」 8. モンゴル世界帝国とは 9. 騎馬遊牧民の持った文字 10. 「夷狄」が主人となる日 11. 遊牧の暮らしが問いかけるもの 12. まとめ			
[成績評価の方法] 毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認して、出席状況を満たしているものの中から、原則として、この小テストだけによって成績評価を行う。	[参考文献] 間野英二等『内陸アジア』地域からの世界史6 朝日新聞社。			
[教科書] 特に指定しないが、配付する資料の「参考文献」欄にあげた文献類を是非一読してほしい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ (モンゴルの口承文芸)		後期	2単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標] チンギス=ハーンにはじまるモンゴルの世界帝国建設は、北アジアに興った騎馬遊牧民の歴史のなかで最も輝かしい時代であった。その支配下で、多くの新しい局面があらわれ、後世にまで大きな影響を及ぼすこととなった。アジアの歴史はモンゴルの時代を抜きにして語ることはできない。 騎馬遊牧を生活形態とするモンゴルには、豊富な口承文芸（口伝の文学）が伝えられている。モンゴル族はチンギスハンの時代に文字を持ったが、それ以前も、それ以後も口承文芸の流れは、たえることなく、伝えられてきた。 わたしたちにとっては、あまりなじみのない口承文芸のありようを、私たちにあまりなじみのない騎馬遊牧という生活形態を行っている人たちについて考えてみようというのがこの講義の目的である。 講義は毎回独立したテーマを設け、1回ごとに完了するやりかたで進める（「読み切り」方式とでもいうべきか）。理解をたすけるために随時担当者作製のプリントを配布する。このように授業が進められるので、最初から聞いていないと、重要なテーマ設定・まえおきなどがぬけてしまい、内容が理解できなくなる。だから原則として遅刻は認めない。また授業中に私語をしたり、携帯電話を机に出すものについては、受講者名簿から除名するので、その方針を了解したうえで履修登録をされたい。</p>	<p>[講義計画] 1. 授業の方針と講義全体の構想の説明 2. 騎馬民族とはーモンゴル出現以前ー 3. モンゴルとは 4. チンギス=ハーンの事績 5. モンゴル世界帝国 6. 口承文芸とは 7. 『元朝秘史』という史籍 8. 生活に密着した口承 9. 韻をふむという技術 10. 口承文芸を採集した人たち 11. 私たちの周辺の口承文芸 12. まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] 毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認して、出席状況を満たしているものの中から、原則として、この小テストだけによって成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献] 原山 煌『モンゴルの神話・伝説』東方書店 1995。</p>			
<p>[教科書] 特に指定しないが、毎回配布する予定の資料の「参考文献」欄にあげた文献類をできるだけ読んでほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ イスラームとは何か		前期	2単位	今 澤 浩 二
<p>[講義概要・学習目標] イスラームとは単に宗教にとどまらず、信者の日常生活のすべてを規定する社会秩序でもある。イスラームの社会を考えるためには、まずイスラームについての基礎知識を体得せねばならない。本講では、特にイスラームの宗教的側面について考察を加え、イスラーム社会への理解を深めることを目的とする。</p>	<p>[講義計画] 序 イスラームにまつわる誤解 1. 預言者ムハンマド 2. コーラン 3. 六信五行 4. ハディース（預言者の言行録） 5. シャリーア（イスラーム法） 6. スンナ派とシーア派 7. イスラーム神秘主義 8. イスラーム知識人</p>			
<p>[成績評価の方法] 時々的小レポート、学期末試験。</p>	<p>[参考文献] 小杉泰『イスラームとは何か』（講談社現代新書） 東長靖『イスラームのとらえ方』（世界史リブレット15, 山川出版）</p>			
<p>[教科書] 特になし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ イスラームの社会		後 期	2単位	今 澤 浩 二
【講義概要・学習目標】 イスラーム世界は、石油ひとつ取りあげても、決して我々と無縁な地域ではない。それどころか、現代の社会情勢を把握するためには、イスラーム世界に対する正確な知識が必要となってきた。本講では、イスラーム社会を構成する要素をとりあげて検討を加え、イスラーム世界への理解を深めることを目的とする。	【講義計画】 序 イスラームの成立 1. モスクとマドラサ(イスラーム学院) 2. ワクフ(寄進)制度 3. 奴隷制度 4. イスラームの「やくざ」(任侠・無頼集団) 5. 女性の地位 6. ハーレム 7. イスラーム原理主義			
【成績評価の方法】 時々的小レポート、学期末試験。	【参考文献】 講義中、随時紹介する。			
【教科書】 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ スウェーデンの社会と経済	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	伊 藤 正 純
【講義概要・学習目標】 この講義の狙いは、平等で民主的な福祉国家として有名なスウェーデン社会の特徴をできるだけたくさん紹介し、皆さんが現在の日本の社会を検討するときの比較の鏡を提供することにある。ただ、社会福祉の実情ばかりの紹介が多い日本の現状から鑑み、スウェーデン福祉国家を支える政策の組み合わせの妙(＝奥深さ)を知ってもらうため、まず身近な環境問題、女性問題などの諸政策の説明から入り、次いで、政治制度(国・県・市の役割分担、選挙制度、参加型民主主義)や労使関係(強い労働組合、経営参加)に進むつもりである。従来までのスウェーデンの政治・経済は、社会コーポラティズムと特徴づけられてきた。ところがいま、この社会コーポラティズムがEU加盟によって変化している。この点にもできれば言及したい。	【講義計画】 1. スウェーデン福祉国家生成の諸画期 2. 環境政策、ゴミ問題 3. 女性問題、女性の社会進出、男女平等 4. 政治制度(選挙制度、地方政治、高齢者福祉、障害者福祉) 5. 労使関係(妥協型労資関係、労働者の経営参加) 6. グローバル化のなかでの選択(資本の世界展開、EU加盟)			
【成績評価の方法】 平常点(授業中にとときき書いてもらう感想文:約20点)と学期末の筆記試験(約80点)による。	【参考文献】 1. 平田清明、伊藤正純他『現代市民社会と企業国家』御茶の水書房 2. 岡沢憲英『スウェーデンの挑戦』岩波新書 3. 岡沢憲英・宮本太郎編著『スウェーデン・ハンドブック』早稲田大学出版部 4. 藤岡純一編著『スウェーデンの生活者社会』青木書店 5. 伊藤和良『スウェーデンの分権社会』新評論 6. 加藤彰彦・馬場寛『スウェーデンの社会サービス法/LSS法』樹芸書房			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (55年体制の成立と崩壊)		後 期	2 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] ・戦後日本の政治の歩み 第二次世界大戦後約10年の政治的混乱を経た後の昭和 30 年、自由民主党と日本社会党が結党され、いわゆる「55年体制」が成立した。これは 1993 年の細川内閣の成立まで継続するが、この「55年体制」こそ、戦後日本の政治を主導したものに他ならず、これが崩壊した今日でも、その影響は決して小さくはない。 「55年体制」は、政治的安定の下での高度経済成長を為し遂げた反面、政治腐敗や「密室での馴れ合い政治」を恒常化させることにもなった。 この講義では、戦後日本の政治史を振り返り、現代の政治状況を踏まえつつ、「55年体制」の功罪について考える。	[講義計画] 1、55年体制成立前史 2、55年体制の成立とその意味 3、55年体制下の政治体制とその功罪 4、55年体制と官僚 5、55年体制の崩壊 6、55年体制と今日の連立政権時代との相違			
[成績評価の方法] 成績評価は、定期試験で行う。 授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。場合によっては退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。	[参考文献]			
[教科書] 教科書は使用しない。 参考文献については、授業中に随時紹介して行く				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (選挙制度の比較研究)		前 期	2 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 現代民主主義にとって、議会制はいわば不可欠な制度である。最近脚光を浴びている住民投票は、あくまで議会を補完する制度と位置づけられるに過ぎない。 その議会を構成する議員を選ぶのが選挙であり、選挙こそは、国民が政治に参与することを制度的に保障する殆ど唯一の機会である。 だが、選挙制度は複雑多岐であり、制度によって選挙の結果が大きく異なるものになるもの決して不思議なことではない。(2000年11月に行われたアメリカ大統領選挙を想起されたい。) この授業では、現代政治にとって重要な政治制度である選挙制度について、歴史的・比較政治的視点を踏まえつつ講義する。	[講義計画] 1、現在の日本の選挙制度 ①衆議院・小選挙区比例代表並立制 ②参議院・非拘束名簿式比例代表制 2、過去の日本の選挙制度 ①衆議院・中選挙区制 ②参議院・全国区 ③参議院・拘束名簿式比例代表制 3、英米の選挙制度 ・単純小選挙区制 4、フランスの選挙制度 ・小選挙区2回投票制 5、ドイツの選挙制度 ・小選挙区比例代表併用制			
[成績評価の方法] 成績評価は、定期試験で行う。 授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。場合によっては退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。	[参考文献]			
[教科書] 教科書は使用しない。 参考文献については、授業中に随時紹介して行く				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅳ (変わる社会・孤立化する個人)		9月集中	2単位	土屋正春
〔講義概要・学習目標〕 「我々はどこから来たのか、そしてどこに行くのか」という言葉はタヒチに没した画家ゴーギャンの言葉として皆さんもご存知でしょう。この言葉は、現代文明に対する根本的な問いかけでもあるのですが、実はもう一つの言葉が、この二つの言葉の間にはあるのです。 環境問題が深刻化する一方で多様な文化の担い手である「ひと」は次第に生命活動の「DNA総合体」として認識されることが多くなりつつあります。安楽死や尊厳死をめぐる問題はそうした場面が別の現れ方をしていると言えるでしょう。 このクラスでは環境と生命とをめぐる現代的な考え方についての概観を得ることを目標とします。ところで、間に入る言葉とは何でしょう。	〔講義計画〕 1. 何が問題となっているのか アザラシはなぜ大量死したのか 生きる価値がないとなぜ人は考えるのか 2. 問題はどのように受け止められているのか COP3の議論はどのように組み立てられたのか 尊厳死と安楽死はどのように選択されているのか 3. 現代社会での個人のあり方をめぐって 環境最優先という考え方について 生命最優先という考え方について			
〔成績評価の方法〕 講義を通じてお知らせします	〔参考文献〕 講義を通じてお知らせします			
〔教科書〕 使用しません				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅳ (沖縄の歴史と社会)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	片倉 穰
〔講義概要・学習目標〕 沖縄は、アイヌなどの北方民族とともに、日本を考える二つの顔である。本年度は、沖縄の歴史と社会の展開をとおして、日本にとって沖縄とはなにか、を考察する。 沖縄は、政治・経済・社会・思想等々、多様な面で他の都道府県と違う歴史と社会を形成してきた。自然環境では亜熱帯の「島社会」、歴史では独立の琉球王国、薩摩の琉球支配、近代日本政府の「琉球処分」、アジア・太平洋戦争の戦場としての沖縄戦と戦後の米軍支配をへて本土復帰、現代では日米安保体制下の「基地のなかの沖縄」という、「日本社会を構成する地域一般に解消しきれない、きわめて独自の地域」(安良城盛昭)である。 古代から現代までの沖縄の歴史と社会について、具体的な史料や最近の研究を紹介しながら講義をすすめるが、受講生の皆さんが沖縄の歴史と社会の展開から、なにかを学んでくれることを期待する。	〔講義計画〕 (1) はじめに—この講義の目的・趣旨など (2) 沖縄の英雄叙事詩—沖縄のころをさぐる (3) 舜天王と源為朝—沖縄の人びとの帰属意識を考える (4) 琉球王国の海洋活動と社会の展開 (5) 薩摩の琉球支配と沖縄の人びと (6) 近代日本のなかの沖縄県 (7) 戦場となった沖縄と基地沖縄—日本のなかの沖縄を考える (8) 都道府県の慰霊碑と「南北の塔」—現代日本人の沖縄観 (9) おわりに—沖縄からなにを学ぶか			
〔成績評価の方法〕 出席状況、期末試験あるいはレポートにより評価する。	〔参考文献〕 新里恵二『沖縄史を考える』勁草書房、1970年 新崎盛暉『日本になった沖縄』有斐閣、1987年 安良城盛昭『天皇・天皇制・百姓・沖縄』吉川弘文館、1989年			
〔教科書〕 とくにない。プリントを配布して授業をすすめる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ 先住民族とキリスト教Ⅰ.		前 期	2単位	小 柳 伸 顕
【講義概要・学習目標】 制度化された宗教の実態はどんなものであったのでしょうか。中世のスペインのキリスト教をとりあげて検討します。コロンブスにはじまる大航海時代のキリスト教は、先住民族(インディオ)との関係の中で、その実態が明らかになりました。スペインキリスト教徒がインディオに対してしたこと、それに対し生涯をかけて抵抗したスペイン人司祭ラスカサスの思想に学びます。		【講義計画】 1. 1492年のスペインーキリスト教、ユダヤ教、イスラム教 2. コロンブスと「新」大陸。ー黄金か神か。 3. 植民者ラスカサス。ーラスカサスの野望。 4. 司祭ラスカサスの回心。ー第一回、第二回。 5. インディオとは誰かーラスカサスとセポールバダ 6. インディオとキリスト教 以上の項目について2~3回ずつ検討します。		
【成績評価の方法】 期末テスト(時々実施の教室での小レポート参照にお)		【参考文献】 染田秀藤 『ラスカサス』 清水書院 石原保徳 『インディアスの発見』 田畑書店 * 授業では、各項目に関係する参考文献とをそれぞれ紹介します		
【教科書】 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ 先住民族とキリスト教Ⅱ		後 期	2単位	小 柳 伸 顕
【講義概要・学習目標】 日本の先住民族アイヌに積極的にキリスト教を伝えたのは、イギリス人聖公会宣教師ジョンバチャーです。ジョンバチャーのキリスト教宣教に、アイヌ民族はどのように対応したか。バチャーの養女バチャーハチ子、詩人の遠星北斗を通して考えます。また、北海道の名付親と言われ、松浦武四郎とバチャーとを比較する中で、キリスト教の果たした役割について検討します。また、いまキリスト教はアイヌ民族とどう向き合っているかにも注目します。		【講義計画】 1. アイヌ民族の歴史から。 2. 松浦武四郎の思想と行動ー「近代蝦夷人物誌」 3. ジョンバチャーのめざしたもの 4. アイヌ民族の詩人 遠星北斗ー遺稿「コタン」から。 5. バチャーハチ子の短歌にみるキリスト教観 6. アイヌ民族とキリスト教ー今日の状況から。 各項目について2-3回取り扱います。		
【成績評価の方法】 期末テスト(時々実施の教室での小レポート参照にお)		【参考文献】 宮島利光 『チキサニの大地』 日本基督教団出版局 谷川健一編 『近代民族の記録』 5. アイヌと新人物往来社 * 授業では、各項目ごとに、関係する参考文献とを紹介し ます。		
【教科書】 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ（人間イエス）	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	滝澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>当たり前の一の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を明らかにすることがこの講義の目標である。そのためには、200年にわたる「福音書」の学問的な研究成果を土台としなければならない。そして、どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような歴史的状況の中で、誰に対して何のために語られた言葉なのかを慎重に判断しなければならない。</p> <p>イエスは民衆の中で民衆とともに生き、人間の自由と愛のために最後まで戦い抜き、その結果として殺された人間である。そのようなイエスの生きざまは、「キリスト教」という枠組みをはるかに超えた普遍性を獲得している。特に、社会福祉・医療・教育・人権・ボランティアなどの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、今日でもなお感動と勇気と希望を与えることになるであろう。真面目な学生諸君の熱心な受講を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>滝澤武人『人間イエス』に従って講義する。</p> <p>序章 イエスをもとめて 1章 おいたち 2章 被差別民衆 3章 ヒーリング 4章 どんな男？ 5章 どう生きる？ 6章 教会は？ 7章 終末 8章 死 終章 復活</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>田川建三『イエスという男』（三一書房） 荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） （できれば旧約聖書も含んだものを準備し、 授業時には必ず毎時間持参すること。） 滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
<p>思想と宗教Ⅱ</p> <p>心を支え合う共同体を創る</p>	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	伊 藤 高 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人と人との関係には、様々な力学が働いている。私たちは、それらについて意識的・自覚的である場合もあるが、無意識的・無自覚な場合もある。本講義では、行動科学・社会心理などの知見の助けを借りながら、人間関係に働く諸力についての気づきを深めることを目指す。</p> <p>また、それらをよりよく理解するには体験学習が効果的であるので、受講者が自ら人間関係のダイナミズムを味わう設定を行う。受け身の座学の時間ではなく、実際に人間関係を営み、そして共同体を築く経験をする。具体的には、自分史の振り返り、家族史、人間関係ゲーム、ロールプレイなどを行う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>自己理解のエクササイズ 他者理解のエクササイズ フィードバックのエクササイズ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>様々な対人関係を「試みる」ことを学習の手段とするこのクラスでは、その「試み」である他者への具体的な働きかけに基づいて個々の受講生を評価することは行わない。全授業に「参加」（出席だけで活動しないのは「参加」ではない）の受講生にはAを、1回でも正当な理由なく欠席した受講生にはDをもって成績評価とする。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (仏教經典を読む)	01 02	前期 後期	2単位 2単位	武田 耕道
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>中国や日本の仏教徒が日常読誦したり、写経している「お経」はほとんどが大乗經典である。『般若經』をはじめとして、『法華經』『阿弥陀經』『華嚴經』『大日經』など、多種多様である。</p> <p>大乗經典は阿含經と同じく、「經」であることを主張するために、形式的には「如是我聞」ではじまり、聴衆が「歡喜信受」することで終わる。「仏説」である。しかし実際は釈尊を追慕し、贊嘆する後世の仏教者たちが信仰告白と瞑想体験を土台として創作したと考えられている。「經」の範囲は中国でさらに拡大されて、經・律・論の三藏の全体を指すようになる。「大藏經」とも「一切經」とも呼ばれる。これらの經典は歴史上の釈尊の悟りと説法が出发点であり、悟りは釈迦牟尼世尊の修行の結果として実現されたものである。実践過程としての修行の階梯、帰依信仰としての如来の贊嘆、つまり「行」と「信」の在り方を經典から学び取りたいと思っている。</p> <p>講義では、如来と信者行者の相互関係に視点を据えて仏教思想の基本構造を追求したい。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、釈迦如来 2、聽聞修行 3、出家在家 4、声聞緣覺 5、菩薩思想 6、阿弥陀如来 7、悟りと救い 8、一乘三乘五乘 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期末試験と出席状況</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業中に紹介</p>			
<p>【教科書】</p> <p>特に指定せず</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (安藤昌益の思想)	01 02	9月集中 12月集中	2単位 2単位	三宅正彦
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>個別事象の内部構造を解明し、その上で事象相互の必然的本質的連関＝法則性を追究するのが本研究の原則である。しかし、特定の利害に立つイデオロギー(のもと)について、個別事象を恣意的に取捨選択し、その内部構造を意図的に曲折させて、論者の主観的立場の表現に利用しようとする傾向がしばしば存在した。最近では安藤昌益の研究が中国の文化大革命流のイデオロギー宣伝に利用された。昌益の思想の実像を明らかにするためには、昌益に関する事象の一つ一つを掘り起こすことから始めなければならぬ。講義者の30年の調査にまつて、この問題に迫る。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究とイデオロギー 2. 昌益研究と事実の掘り起こし 3. 時代と地域 4. 先行思想の影響 5. 思想の東北的特性 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期末試験(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)</p>	<p>【参考文献】</p> <p>三宅正彦著『安藤昌益と地域文化の伝統』(雄山閣, 1996年)</p>			
<p>【教科書】</p> <p>資料を西に布する。ただし、西に布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加西に布や持参するのを忘れた人に対する再西に布は行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ（植民地期朝鮮の宗教）	01	前 期	2単位	青 野 正 明
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] まず、日本による朝鮮の植民地支配について学ぶ必要があるが、特に朝鮮の民族文化と同化政策（「日本人」化の政策）との関係、農村社会の変動を概説する。 次に、巫俗をはじめとする民間信仰について学び、それに対して朝鮮総督府（日本の統治機関）はどのような政策を取ったのかを概説する。 同様に、「東学」以来の民族宗教運動も学び、それに対する総督府による政策を説明する。また、総督府の神社政策も民間信仰との関わりから概略を説明していく。 難しいテーマであるが、留学や現地調査の体験談を交え、また具体的な資料も使いながら、できる限り平易に説明していく。	[講義計画] [講義概要・学習目標] で説明した流れに沿って、教科書を基本にし、必要に応じてプリント類を配布しながら講義を進めていく。			
[成績評価の方法] 出席状況、受講態度、期末レポートを総合的に評価する。	[参考文献] 必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布する。			
[教科書] 青野正明『朝鮮農村の民族宗教』社会評論社、2001年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ（古代インドの自由思想Ⅰ）	01	前 期	2単位	杉 岡 信 行
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] 古代インドの思想・宗教は、祭祀主義のバラモン教が主流であった。ところが、紀元前5、6世紀に北部インドを中心に祭祀主義に異を唱える自由思想家たちが多数輩出した。バラモン教徒たちは、世俗の中にあって、世俗生活を肯定していた。一方、自由思想家たちは、超俗を尊び、出家主義を宗としていた。自由思想家の中でも仏教の開祖であるゴータマ・ブッダとジャイナ教の祖師マハーヴィーラは最も有名である。授業では自由思想家たちの思想と宗教活動について見ていく。 また、古代インドの宗教を考えるとともに、現代における宗教の意味と意義について考えていきたい。	[講義計画] 1) 古代インドとバラモン教 2) 6人の自由思想家（六師外道） 3) ジャイナ教の宇宙観 4) ジャイナ教の業思想 5) 輪廻からの解脱 6) ジャイナ教の実践道 7) 仏教とジャイナ教 8) 宗教と差別			
[成績評価の方法] 期末試験により評価する。	[参考文献]			
[教科書] 宗教と救済』 山口恵照他編著 ナカニシヤ出版	『バラモン教 原始仏典』中公バックス 世界の名著 長尾雅人編 中央公論社			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ (プラトン『国家』を読む)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	木 下 昌 巳
【講義概要・学習目標】 「西洋の哲学の歴史を一言で表わせば、それはプラトンの思想の注釈である」——この言葉は、20世紀のイギリスの哲学者ホワイトヘッドの言葉である。このホワイトヘッドの言葉は、約2400年前の古代ギリシャの哲学者プラトンが哲学的問題と言われている重要な問題を提起し、その方向性を定めたということを描いたものである。そのプラトンの主著『国家』は、専門的な難解な用語ではなく日常的な言葉を使って、それでいてきわめて深いレベルにおいて哲学の基本問題にたいする思索を展開している。本講義は、毎回、日本語でプラトンの『国家』を読みながら、そこで語られている思想について考察して、本格的な哲学的思索に触れることを目的とする。授業のなかでプラトンの思想と対決して、究極的には「自分とは何であるのか？」という認識を深めてもらいたい。哲学というものに積極的な関心を持っている人の受講を希望する。	【講義計画】 毎回の授業は、予習として『国家』の中から指定された範囲を読んでおくことを必要とする。授業に積極的に参加して、自らの考えを発表し、討論に参加することを希望する。単位を取得するには、毎回の授業への参加が必須となる。			
【成績評価の方法】 授業のレポートに加え、授業中の参加発言による	【参考文献】			
【教科書】 岩波文庫 プラトン『国家』上・下				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅰ (現代の宇宙論)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	桑 原 雅 子
【講義概要・学習目標】 現代の宇宙論は20世紀科学が到達した頂点のひとつである。天文学、素粒子物理学、さらに観測装置や人工衛星など技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の始源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。物質世界の統一的記述に一応成功しつつあるといえる。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく講述することは、担当者にとっても至難であるが、チャレンジしてみよう。また講義をとおして、現代科学の方法、科学と技術の分かち難い関係、基礎科学の進展と国家の科学技術政策のかかわりについて考えるきっかけを提供したい。宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることである。コスモロジーとしての人文的要素も、おりにふれ考察の対象とする。	【講義計画】 1. はじめに：宇宙論小史 2. 近代科学の宇宙像 3. 観測と理論：18-19C 4. 銀河と宇宙の構造 5. 膨張する宇宙 6. 相対論的宇宙論 7. ビッグバン・モデル 8. 重元素生成と星の一生 9. 素粒子の世界 10. 標準理論を超えて 11. 観測的宇宙論の新展開 12. おわりに：宇宙と人間 ほぼ一回の講義時間にひとつの章が対応するが、4. 5. 7. 8. の各章には重点的に時間を配分する。			
【成績評価の方法】 期末試験による。 授業中に課する提出物の内容を副次的に考慮する。	【参考文献】 宇宙論については、平易な解説書から専門書まで多種多様な書物が存在する。最新の観測装置によるカラー写真集も種々出版されている。講義中にも提示するが、ぜひ図書館や書店で手にとって見比べ、自分に合う図書を選んでほしい。			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ 戦後日本の技術発達史		後 期	2単位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標] 戦後50年、技術革新の激しい時代を迎え、戦前とは異なる社会構造が形成され、高度経済成長を遂げた。この間に、戦時中から戦後にかけての技術革新の歴史を振り返り、戦後日本の技術発展の経緯を考察する。特に、戦後復興期における技術革新の役割や、戦後日本の産業構造の変化、戦後日本の技術政策の展開、戦後日本の技術教育の展開、戦後日本の技術人材の育成、戦後日本の技術革新の現状と課題について考察する。	[講義計画] 最初に、戦後日本の技術発展の歴史を振り返り、戦後日本の技術革新の役割や、戦後日本の産業構造の変化、戦後日本の技術政策の展開、戦後日本の技術教育の展開、戦後日本の技術人材の育成、戦後日本の技術革新の現状と課題について考察する。			
[成績評価の方法] レポートの提出を課す。後期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。	[参考文献] 最初の授業の日に参考文献を示す。			
[教科書] 講義の際に資料を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ (科学・技術と工学)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	岡 村 清 人
[講義概要・学習目標] 現代は「科学・技術依存型」社会といわれている。特に日本では、「工学・技術依存型」社会である。講義において、「科学・技術」と工学の関連性を工業材料の発展を通して明確にする。	[講義計画] 「科学」と「技術」から「科学・技術」への変遷を明らかにして、日本の「科学・技術」の発展に工学がいかに関わってきたかについて、工業材料の発展を通して講義を行う。さらに「科学・技術」と「社会」との融合について言及する。			
[成績評価の方法] レポートを主とし、出席など総合的に考慮して評価する。	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・村上 陽一郎 (著) 『文明のなかの科学』 (青土社) ・中島 尚正 (編) 『工学は何をめざすのか』 (東京大学出版会) ・村上陽一郎 (著) 『科学・技術と社会』 (光村教育図書) ・加藤 尚武、松山 壽一 (著) 『科学技術のゆくえ』 (ミネルビア書房) 			
[教科書] 講義の際に資料を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ (設計と倫理)		前 期	2 単位	坂 本 勇
【講義概要・学習目標】 今日の科学や技術に関する知的好奇心の 振幅を離れて、つぎの時代のハロタイプを 構築する概念装置について考えてゆく		【講義計画】 1. 技術の主張 2. デザインの思想 3. 倫理性と極め 4. 設計の評価		
【成績評価の方法】 レポート		【参考文献】 尚書等に指示あり		
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ 生命を操る技術の光と陰	0 1 0 2	前 期 前 期	2 単位 2 単位	鈴 木 善 次
【講義概要・学習目標】 今日、科学技術の発達が目ざましいものがある。それによつて人々は便利で快適な生活を手にすることができた。一方で環境変化、人間疎外などさまざまな問題も生じさせた。本講義では“生命を操る技術”を具体例において、科学技術のメリット(光)とデメリット(陰)を検討し学生諸君それぞれに“人間にとって科学技術はどうあるべきか”を考えていただく。 文系系の学生は理科学的事柄と苦手にする傾向があるが、21世紀はさらに科学技術が人々の生活の中に深くみかわる時代であり一市民としてこれらに対する的確な知識をもち、それらに対して意思決定がなされる力を身につけてほしい。		【講義計画】 1. 科学と技術との関連 2. 生命を操る技術の現状と課題 ① 分子レベルでの操作 DNA(遺伝子)組み換え技術 ② 細胞レベルでの操作 人工受精技術、クローン技術など ③ 臓器移植技術 3. 人間にとっての科学技術のあり方		
【成績評価の方法】 授業時に随時提出してもらうレポート、期末テストの結果など総合的に評価する		【参考文献】 講義の際に随時紹介する。		
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (世界の採集狩猟民)		前 期	2 単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] この授業では、人類の進化に伴う生活技術の発展を概説する。前期には、百万年以上にわたる人類の歴史の時間的に99パーセントを占める採集狩猟の生活技術について学ぶ。先史人類学からの情報だけでなく、現代も地球の各地に採集狩猟民がいることを、映像（ビデオおよびスライド）を多く使用して視覚的に知ってもらう。	[講義計画] ビデオ・スライド等を利用して、様々な民族の文化や生活技術を視覚的に理解させる。毎回、出席票に質問や感想を書いてもらい、次回の講義でそれらにできるだけ答える。			
[成績評価の方法] 出席点、レポートおよび試験によって評価。	[参考文献] その都度指定する。			
[教科書] 未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (害虫とたたかう)		前 期	2 単位	巖 圭 介
[講義概要・学習目標] 人間は有史以来さまざまな昆虫とたたかってきた。人間に直接害を与える昆虫や、病気を媒介する昆虫、そして農作物を加害し横取りしようとする昆虫。とくに農業の歴史は、害虫との絶えまないたたかひの歴史でもあった。 化学合成殺虫剤の発明は害虫とのたたかひにピリオドを打つかに見えた。ところが殺虫剤などの農業は、人の健康を害し、野山の生き物を殺し、環境を破壊し、その一方で害虫の数はいっこうに減ることがない。農業に頼り切ってきた過去50年の農業が、今転換期を迎えようとしている。 この授業では、人間の害虫とのたたかひの歴史をたどり、開発されてきたさまざまな技術を概説する。それを通して、ただ単に害虫防除の只知道るというだけでなく、日々何気なく口にしてる野菜や果物がどれだけの苦勞をかけて作られていて、今農業がどういう状況にあるかという『食』の問題について関心を持ってもらいたい。	[講義計画] おおむね次のようなテーマに沿って進行する。 ・害虫防除史 ・いろいろな害虫 ・稲作農家の永きたたかひ ・農業のすべて ・害虫はなぜはびこる ・天敵の話 ・遺伝子組み換え作物 ・530億匹の闘い：ウリミバエの根絶 ・総合的害虫防除 ・有機農業			
[成績評価の方法] 2回の短いレポートと論述式の期末試験により判定する。	[参考文献] 必要に応じて授業中に示す			
[教科書] とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (滅びゆく生物)		後 期	2 単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から収奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして私たちは何をすればいいのだろうか。</p> <p>この講義では、生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していくが、同時にこの地球に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかということを考える機会としてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然の関わり ・原生林の保護 ・里山の成立と破壊の歴史 ・ウェットランドー陸と水が出会う場所ー ・滅びゆく生物が直面する遺伝的問題 ・侵入生物の脅威 ・生物の有効利用と乱獲 ・絶滅危惧種の把握と保護 ・生息場所の復元 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと論述式の期末試験により判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅰ)		前 期	2 単位	井 田 和 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代文明を特徴づけている科学と技術とはいったいどのような科学・技術をさすのか。科学技術はどこへ行こうとしているのか。科学や技術が産業構造だけでなく、社会や政治さらには人間の生存そのものにも、かかわりあいを持つものになってきた。</p> <p>身近な地域の公害問題を解決し、環境保全の立場にたった科学技術の発展が急務である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水環境：水の特性と働き、水の環境、都市に水を安定供給する方法、河川水の水質汚濁 2. 大気環境：環境大気の構造と組成、環境大気の汚染物質、光化学スモッグ、ヒート・アイランド 3. 土環境：土壌の誕生と機能、都市土壌の特徴、土壌汚染、市街地の土壌汚染の防止 4. 環境資源としての森林の働き 5. 有機塩素系化合物（環境ホルモン）の毒 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅱ)		後 期	2 単位	井 田 和 子
[講義概要・学習目標] 歴史の歩みの中で科学や技術はどのような役割を果たしてきたか、人間社会の未来に対してどのようにかわりあっているのか。 科学技術が経済構造、社会や政治、人間そのものにまで、深いかわりを持つようになってきた。 生産者ではなく、消費者主導の、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急がれる。	[講義計画] 1. オゾン層の破壊：破壊機構とフロンガス 2. 地球の温暖化：温暖化と化石燃料、温暖化の影響 3. 酸性雨と環境の酸性化：高度工業化と酸性化問題 4. 熱帯林減少：経済問題と気象への影響 5. 人為が原因の砂漠化 6. 海洋の有機塩素化合物汚染 7. 環境問題と科学技術			
[成績評価の方法] テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	[参考文献]			
[教科書] 印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ 「情報」を科学で扱う	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	後 藤 邦 夫
[講義概要・学習目標] コンピュータの中で「情報」が処理され、通信回線や電波を通して「情報」が世界中を駆け回っている。そこでは科学や技術が力を利かせているが、一体「情報」（あるいは知識）を「科学的に扱う」とはどういうことだろうか。たとえば、文学等で言葉を扱うのとどう違うのだろうか。歴史的な話題を取り上げながら、われわれが行ってきたことを振り返ってみる。いわば、「対話と手紙」から「インターネット」までを、出来るだけ共通のモデルによって考えてみようというのである。そのモデルは「科学」としては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」をどのように変えたか。これから否応なしに人工的な情報処理の世界に入っていく学生諸君に、一度考える機会が提供できれば幸いである。授業はできるだけ平易に行うが、情報に関する基礎的な理論の輪郭は理解してもらいたい。	[講義計画] 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) 言葉とコミュニケーションを扱うモデル。 (2) 文字情報の生成と伝達（印刷と出版のシステム）。 (3) 情報の「符号化」の役割。 (4) 「ことば」と「波」（電波による情報の大量輸送）。 (5) 情報の理論的基礎（1）シャノンの第1定理の意味。 (6) 情報の理論的基礎（2）シャノンの第2定理の意味。 (7) コンピュータにおける情報の働き。 中途で次序や優先順位をいじることが必要である。			
[成績評価の方法] 期末のテストの結果が中心であるが、テーマごとのレポートを課し、合わせて評価する。	[参考文献] 部分始終の問題や専らこのテーマに関する多くの良書があるが、入門書に於いては少ない。講義の進行の中で必要に応じて示す。			
[教科書] (使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ 情報の数理	01 02	前期 後期	2単位 2単位	井 上 勤
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報科学（特にコンピュータを利用）を学修する諸君に対して数学的要素として持ち合わせていて当然と思われる内容を講義（演習を含む）する。 命題理論を中心に後半では、ブール代数やカルノー図について言及する。 これらの応用は情報の生成はもとより論理回路の設計はコンピュータの原理と密接な関係があることは確かである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 基礎（集合，関数，順列，組合せ，基数法） 2. 論理（論理代数，ブール代数，論理ゲートと論理回路）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主資料は定期試験の成績と平常授業の出席状況である。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴田正憲 浅田由良 共著 情報科学のための離散数学 コロナ社</p>				

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	今澤 浩二	90	07	杉岡 信行	93	13	藤原 健	96
02	巖 圭介	90	08	高田 里恵子	93	14	三浦 俊介	96
03	岡本 洋之	91	09	滝澤 武人	94	15	安田 真一	97
04	片倉 穰	91	10	竹中 暉雄	94	16	柳父 章	97
05	木下 昌巳	92	11	深澤 徹	95	17	山川 偉也	98
06	佐藤 慶子	92	12	藤井 肇	95			

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
4. 学則上、この科目は「共通自由科目（共通系）（2単位）」に位置づけられています。
5. 履修登録にあたっては、以下のとおり事前に予備登録が必要です。

対象者：全学年・学部・学科生（96生以降）

定員：30名

日時：01E・SS・SW・B・LE・LI 生

4月7日（土）

9:10～13:00（昼休憩なし）

96～00E・SS・SW・B・LE・LI 生

4月2日（月）

9:10～15:00（11:30～12:30 昼休憩）

場所：学務課窓口

クラス発表：4月12日（木） 聖アンデレ館下掲示板

申込方法：① 「論述作文予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入して提出してください。

② 希望するクラスを3つ以内記入してください。

ただし、同一クラスを記入することはできません。

③ 記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	01	通 期	2 単位	今 澤 浩 二
【講義概要・学習目標】 日本人なら誰でも日本語の文章が自由に書けると思われがちである。しかしながら、メモ・日記など自分のために書く文章は別として、人にわかってもらうために文章を書くということは、思うほど容易なことではない。それには一連の訓練と技術が必要なのである。本講では、読み手にとって誤解のない、わかりやすい文章を書く方法を修得することを目的とする。	【講義計画】 原稿用紙の使い方、句読点の打ち方、文章構成などに関する短い講義をまじえつつ、作文の提出と添削を繰り返す。前期は原稿用紙2～3枚程度の簡単な作文をする練習を行ない、後期にはレポート、修了論文等に利用してもらうべく、少し長めの小論文を書く訓練を行なう。			
【成績評価の方法】 講義中に提出する作文、夏・冬休みの課題。	【参考文献】 本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫） 斉藤孝『学術論文の技法』（日本エディタースクール出版部）			
【教科書】 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	02	通 期	2 単位	巖 圭 介
【講義概要・学習目標】 「的確な日本語で自分の考えを人に伝える」、これは学校のレポートに限らず、日常にも社会に出てからも、あらゆる場面で必要な能力である。事実に基づいて論理を展開し、自分の主張を相手に伝え納得させることのできる文章を書くことが、この講義の最終目標である。とくにこの授業では、文学や手紙のように心情的要素を含むものではなく、事実や状況に基づいた自分の意見をストレートに簡潔明瞭に述べる文章の書き方を修得してもらいたい。	【講義計画】 ときどき短い講義を挟みながら、原稿用紙2枚程度のレポートをいろいろなテーマに沿って毎回授業時間中にまとめる。できた作品に添削を加えて、いろいろな問題点を理解してもらおう。 文章力と思考力を養うため、日記（ジャーナル）をつけてもらおう。 ワープロと電子メールを利用したいので、未経験者は計算機センターが行うガイダンスに参加しておくこと。			
【成績評価の方法】 出席状況と提出作品数で評価する。欠席5回で除籍する。	【参考文献】 木下是雄「レポートの組み立て方」ちくま文庫 本多勝一「日本語の作文技術」朝日文庫			
【教科書】 とくになし				